

# 倉吉市内遺跡分布調査報告書13

平成16年度

倉吉市教育委員会

## 序

この報告書は、平成15年度及び16年度に、倉吉市内における開発事業に伴って事前に実施した試掘・確認調査の記録です。

鳥取県の中央部に位置する倉吉市は、豊かな自然の風土の中で育まれた数多くの文化財が今日に伝えられており、なかでも埋蔵文化財は県内でも有数な包蔵地として周知しているところです。倉吉市教育委員会では、こうした埋蔵文化財を守り、開発事業との共存を図るため、各関係機関との協議を重ね、さらには地元の方々の御理解と御協力を得ながら、文化財保護行政を進めているところです。

今回実施した調査においても、遺跡の有無とその広がりや遺跡の性格を把握するという所期の目的を果たし、開発機関との調整を図りながら文化財の保存を講ずることができました。発掘調査の記録をここに報告し、埋蔵文化財行政の資料として、また調査研究の一資料としてご活用いただければ幸いに存じます。

最後に、調査にご協力いただきました市民の方々をはじめ、関係各位に対し、深く感謝の意を表するものであります。

平成17年3月

倉吉市教育委員会

教育長 福光純一

## 例　　言

1 本報告書は、平成15年度及び16年度に倉吉市教育委員会が、国・県の補助を受けて実施した分布調査の記録である。分布調査は、トレンチによって道路の有無・範囲・性格を調査したものである。

2 調査体制は次のような組織・編成である。

調査主体 倉吉市教育委員会

半 寄 局 倉吉市教育委員会文化財課

福光純一（教育長） 河本篤史（教育次長）

眞田廣幸（文化財課課長） 佐々木英朗（文化財課課長補佐兼文化財係長）

森下智哉（文化財係主任） 根除智津子（文化財係主任）

加藤誠司（文化財係主任） 関平拓也（文化財係主任）

内務整理 竹嶋曉子・仲田麻子・松鶴あつ子・蔽美紀子（16年度）・山本千恵美・山口　隆（16年度）

山田陽子（16年度）・山田芳恵（15年度）

3 地形図は、平成11年修正測量の1：2,500国土地理院 倉吉市平面図を使用し、方位は国土座標第V座標で示した。

4 発掘資料は倉吉市教育委員会で保管している。

## 目　　次

1 大平町地区（山ノ鼻遺跡）	1
2 国府A地区	2
3 国府D地区	3
4 伯耆国庁跡第8次調査	4
5 上古川地区（中林遺跡）	5
6 尾田地区	6
7 大谷A・B地区（向野遺跡）	7
8 小田地区、下古川地区（下古川上通り遺跡）	8
9 長坂町地区（大境遺跡）	9
10 駄経寺町2丁目A・B地区（大御堂廐寺跡関連遺跡）	10
11 海田東町地区	12
12 生田地区	14
13 北野地区	15
14 寺谷A・B地区（寺谷石坂遺跡：A地区）	16
15 上余戸地区	17
16 小鶴地区	18
17 国府A地区	19
18 東仲町地区（下広小路遺跡）	20
19 国分寺地区（国分寺遺跡群）	22
20 三江地区（上野遺跡）	23
21 上福田地区（観音堂7号墳）	26
22 伯耆国庁跡第9次調査	27
23 清谷地区（萬燈山遺跡）	31
24 国府B地区（白市遺跡）	32

## 1 大平町地区（山ノ鼻遺跡）

調査地点 倉吉市大平町字山ノ鼻313-3  
調査期間 平成15年4月24日～平成15年5月2日  
調査契機 海田東町共同墓地拡張  
調査方法 レンチによる試掘・確認調査  
調査面積 38m<sup>2</sup>  
調査担当 岡平拓也  
調査概要 開発予定地に合計3本のレンチを設定し調査した。丘陵頂部のレンチ1・2では溝を検出した。溝埋土から土師器・鉄鎌が出土したことから溝は古墳周溝と考えられる。また、不明確ではあるが、レンチ3では土壤のような落ち込みを検出しており、遺跡は開発範囲全域に広がっていると考えられる。事前に発掘調査が必要である。

レンチ番号	縦横 (m)	面積 (m <sup>2</sup> )	検出遺構	出土遺物
1	6×2	12	溝 1	土師器
2	7×2	14	溝 1	鉄鎌
3	6×2	12	土壤 1	



## 2 国府A地区

調査地点 倉吉市国府字東前409番地

調査期間 平成15年5月7日～平成15年5月12日

調査契機 墓地造成計画

調査方法 レンチによる試掘・確認調査

調査面積 34m<sup>2</sup>

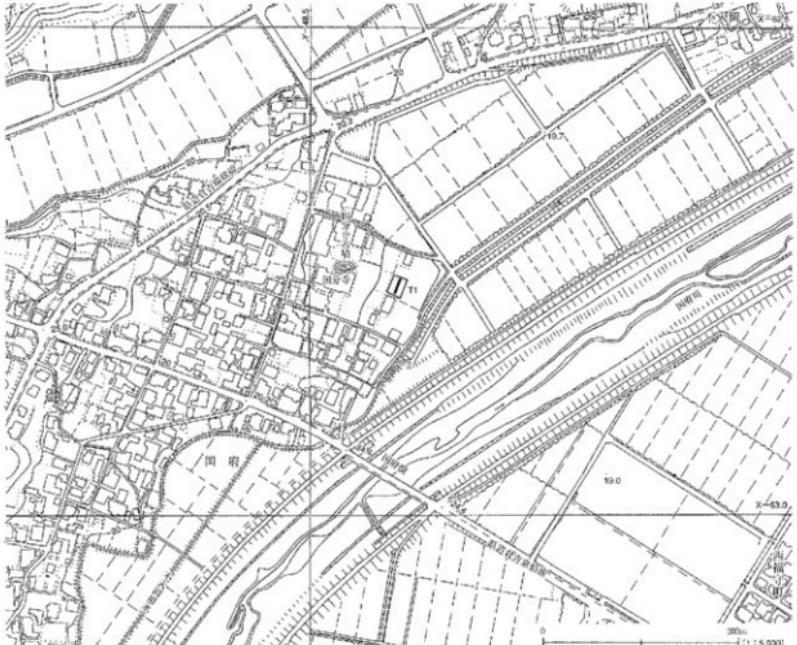
調査担当 加藤誠司

調査概要 調査地は国府川左岸から約120m北の微高地上に所在する。標高は約21mで、水田面より約1m高い。現況は草地であった。基本層序は①表土（黒褐色土）②ソフトローム土（ホーキ土ブロック含む）③ホーキ土である。①層は約20cmで、南西側が②層・北西側が③層で遺構検出を行なった。

その結果、直径20～50cmのビットが約20個確認された。ビットは約1m間隔で並ぶものもあり、掘立柱建物や柵列の一部であると推定される。出土遺物は、表土中とビットの埋土中から土師質土器の小片が少量出土した。

開発予定区域全域に中世の集落が存在するため、事前に発掘調査が必要である。

トレンチNo	規模 (m)	面積 (m <sup>2</sup> )	検出遺構	出土遺物
1	17×2	34	ビット 20	土師質土器・陶器・鉄片

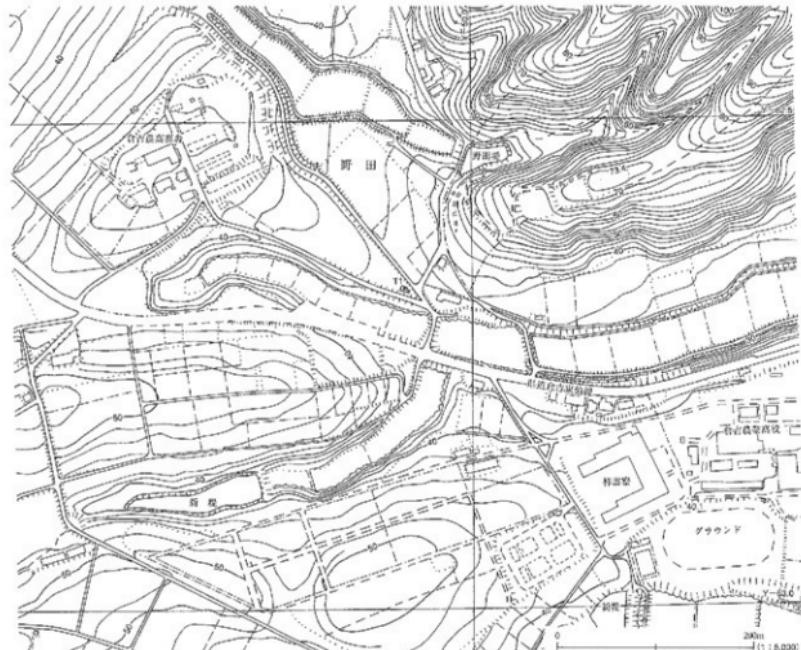


### 3 国府D地区

調査地点 倉吉市国府字白市1562  
 調査期間 平成15年5月29日～平成15年5月30日  
 調査契機 受水槽改修  
 調査方法 トレンチによる試掘・確認調査  
 調査面積 8 m<sup>2</sup>  
 調査担当 加藤誠司  
 調査概要 調査地は大山の火山活動によって形成された丘陵上に位置する。嵐ヶ丘牧場の畜舎が建つ丘陵頂部は、白市遺跡が存在し、そこから南東方向になだらかな尾根の斜面が広がる先端に位置する。現況は牧草地で、標高約38mであった。  
 基本層序は上層から①耕作土（10～20cm）②客土（ホーキ土とA・T層の混じった土、10～20cm）③黒褐色土と黒色土の混じり土（20cm）④黒褐色土（20cm）⑤黒色土（20cm）⑥暗褐色土（ソフトローム暫移層、30cm）である。調査の結果、表土下70～90cmの⑤層から須恵器と弥生土器の破片が各1片出土した。

開発による掘削は、深さ10cmで遺物包含層に達しないため、慎重工事とする。

トレンチNo	規模 (m)	面積 (m <sup>2</sup> )	検出 遺 墓	出 土 遺 物
1	4 × 2	8	なし	弥生土器・須恵器



#### 4 伯耆国府跡第8次調査

調査地点 倉吉市国府字三谷1478-1

調査期間 平成15年6月9日～平成15年9月11日

調査契機 煙地整備計画

調査方法 レンチによる確認調査

調査面積 480m<sup>2</sup>

調査担当 加藤誠司

調査概要 調査は、史跡伯耆国府跡の指定地内民有地、国府外郭区画溝の西限からさらに西で行なった。レンチは十字に東西方向・南北方向に入れ、遺構を確認した場合、必要に応じて拡張した。調査の結果、掘立柱建物10棟、溝1条を確認した。(図面はP28～30参照)  
SB34 A・B Aは2間×5間(4.8m×10.8m)以上の南北棟、BはAとはほぼ同位置で建替えたもので2間×4間以上ある。建物方位はN12°W。

SB35 梁行2間×桁行2間以上(4m×4m)の東西棟、建物方位はN30°W。

SB36 梁行1間以上×桁行3間以上(1.8m×4.8m)の東西棟、建物方位はN35°W。

SB37 1間×1間分(2.0m×2.0m)を確認。建物方位はN30°W。

SB38 梁行不明で桁行3間以上(5.4m)。建物方位はN35°W。

SB39 梁行1間×桁行2間以上(2.2m×3.2m)の南北棟、建物方位はN30°W。

SB40 梁行2間×桁行2間以上(4m×3.2m)の東西棟、建物方位はN30°W。

SB41 梁行2間×桁行2間以上(4m×3.6m)の東西棟、建物方位はN30°W。

SB42 梁行1間以上×桁行2間以上(1.3m×2.5m)の南北棟、建物方位はN30°W。

SD41 国府外郭西限溝のさらに西側約12mで南北溝を確認。溝は長さ4m分が途切れ、幅最大約1.8m×深さ0.7mで方向は西限溝とほぼ一致する。ただし、断面形は、一般的に国府区画溝の断面が逆台形であるのに対し、丸みを帯びている。

出土遺物は伯耆国府縄年の第2段階を中心に1～3段階の土師器が出土しているが小片が多い。また、口径が約10cm弱でセッテの可能性がある7世紀後半の須恵器蓋坏が完形に近い状態で包含層から出土した。墨書き土器のうちレンチ1の2片は「郷ヶ」・「井」と判読される。鉛滓は全体で約1.8kg出土。

遺構の時期は、SB34が8世紀後半ころ、SD41と他の建物が9世紀代と出土土器から推定する。掘立柱建物はいずれも、国府の内郭域・外郭域と異なり、北西方向に向かって低くなる地形に沿うように建てられる。このことは北方官衙・西方官衙より1ランク下がった実務的空間と推定される。ただし、国府期の遺物が小片のみで、7世紀後半の完形に近い須恵器が付近で出土していることから、断定はしかねるが国府以前の別遺構である可能性もある。

今後、周辺地域の確認調査を進めて、未解明部分を明らかにする必要がある。

レンチNo	規模(m)	面積(m <sup>2</sup> )	検出遺構	出土遺物
1	51×3 (拡張)	153 29		土師器・須恵器・手捏土器・墨書き土器・鍛滓・鍬羽口・七鍊・石錘・砥石片
2	51×3 (拡張)	153 109	掘立柱建物 9、溝 1	土師器・須恵器・板用鏡・鉛滓・鍬羽口・土鉢・磨石片

## 5 上古川地区（中林遺跡）

調査地点 倉吉市上古川字中林 650-12

調査期間 平成15年7月16日～平成15年7月22日

調査契機 堆肥等処理施設緊急整備事業

調査方法 トレンチによる試掘・確認調査

調査面積 18m<sup>2</sup>

調査担当 関平拓也

調査概要 開発予定地に1本のトレンチを設定し調査した。現地表面から0.5～0.6m下で暗褐色土の遺構検出面となり、直径0.3～0.4m程度の柱穴を3個確認した。トレンチの上層は耕作等で搅乱されているものの、耕作土下を中心に比較的多量の土師器・須恵器と少量の瓦が出土した。穴の1つから墨書のある土師器坏が2個重なった状態で出土した。墨書は「十」と書かれており、記号とみられる。祭祀に伴う遺構の可能性がある。土器類の時期は伯耆国広編年第2段階（9世紀代）のものが主である。調査結果から、周辺には奈良・平安時代の集落が広がるものと推定される。

トレンチNo.	規模(m)	面積(m <sup>2</sup> )	出土遺物
1	9×2	18	ビット 3 須恵器・平瓦・丹塗土師器・墨書き器



## 6 尾田地区

調査地点 倉吉市上尾田字外輪谷228

調査期間 平成15年7月29日～平成15年8月19日

調査契機 堆肥等処理施設緊急整備事業

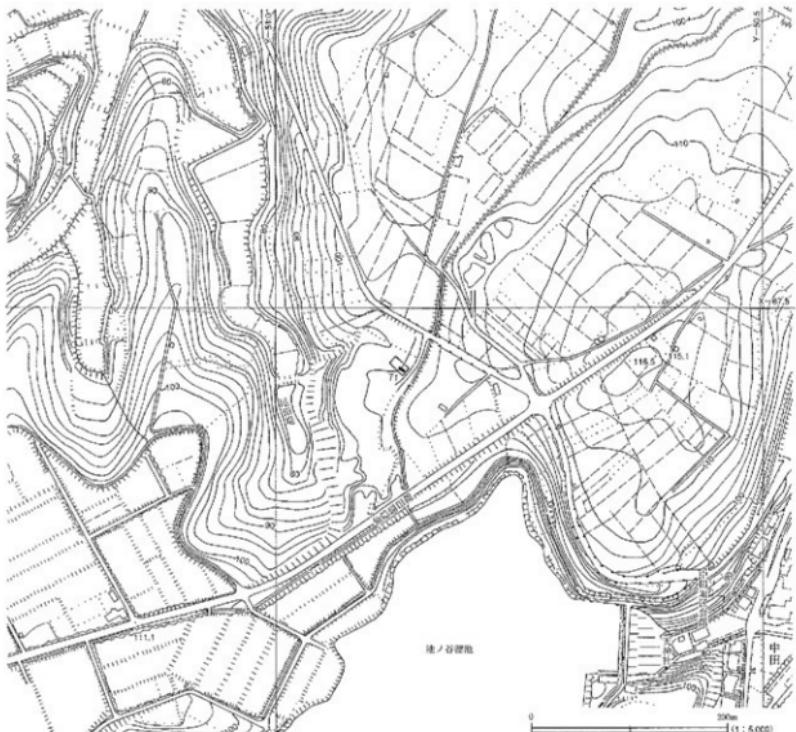
調査方法 レンチによる試掘・確認調査

調査面積 14m<sup>2</sup>

調査担当 岡平拓也

調査概要 開発予定地に1本のレンチを設定し調査した。現地表面から約1.5m下で暗褐色土の遺構検出面となる。その内現地表面から0.6～1mは客土である。遺物・遺構とも無く、開発に支障はない。

レンチ番号	規模(m)	面積(m <sup>2</sup> )	検出遺構	出土遺物
1	7×2	14	なし	なし



## 7 大谷A・B地区（向野遺跡）

調査地点	倉吉市大谷166他（県立倉吉農業高等学校地内）
調査期間	A地区：平成15年9月4日～平成15年9月19日 B地区：平成15年12月12日～平成16年1月8日
調査契機	A地区：県立倉吉農業高校自転車置場設置工事 B地区：県立倉吉農業高校下水道接続工事
調査方法	トレント・グリッドによる試掘・確認調査
調査面積	A地区：36m <sup>2</sup> B地区：42m <sup>2</sup>
調査担当	A地区：加藤誠司 B地区：岡平拓也
調査概要	A地区：調査はトレントを2箇所設定し、行った。学校整地上の下から掘立柱建物を計3棟確認した。出土遺物はおむね伯耆国年第2段階のものである。 B地区：下水道ポンプ槽が設置される農業機械実習室横（グリッド1）と男子寮北側（グリッド2）を調査した。グリッド1では、学校造成土下に地山ブロック土で埋め戻された層を確認した。その下の地山には、掘削に用いた幅16cm程度の鋤（鍬）先の工具痕跡が多数残る。工具痕は一方向にならび、工具の刃の向きとは直交する方向に幅の狭い掘り残し部分もしくは段差が0.7m～1mおきに平行線状にみられた。掘り残し・段差は作業員ごとの掘削深さの違いにより生じたと考えられる。また、地山ブロックによる埋め戻し土は、上層のクロボクをほとんど含まず、掘削～埋め戻しの作業が計画的・組織的なものであると考えられる。同様の状況は30m北西の向野遺跡1次調査でも確認されており、造成がかなり広範囲に及ぶことが明らかになった。時期は平安時代と推定されている。埋め戻し土の下層から、柱穴3個が直線上にならぶように検出された。

グリッド2では土師器・須恵器などが出土したもの、遺構は検出されなかった。

A地区	トレントNo	規模 (m)	面積 (m <sup>2</sup> )	検出遺構	出土遺物
	1	6×3	18	掘立柱建物 2	土師器・須恵器・丹波土師器・青磁
	2	6×3	18	掘立柱建物 1	土師器・須恵器・丹波土師器

B地区	トレントNo	規模 (m)	面積 (m <sup>2</sup> )	検出遺構	出土遺物
	G1	5.5×5.5	30	造段成、横列	土師器・丹波土師器・須恵器
	G2	3.5×3.5	12	なし	土師器・丹波土師器・須恵器・曲器・近代道具



8 小田地区（平成15年度）、下古川地区（平成16年度）（下古川上通り遺跡）

調査地点 倉吉市下古川字上通り104-3、105-1、111-3、字宝大寺79-2（15年度）

字上通り111-3（16年度）

調査期間 平成15年9月8日～平成15年10月24日

平成16年7月1日～平成16年7月13日

調査契機 鳥取県立倉吉総合産業高等学校 教室・商業・家庭科棟新築、部室改築、体育館更衣室増築、自転車置場増築（15年度）、実習棟増築（16年度）

調査方法 トレンチによる試掘・確認調査

調査面積 124.3m<sup>2</sup>（15年度） 21m<sup>2</sup>（16年度）

調査担当 岡平拓也

調査概要 平成15年度：校地造成時の客土の下に旧水田耕土層があり、その下に中世から古墳時代の遺物包含層を数層確認した。中でも古墳時代前期の遺物は、大型で摩滅していない破片が多数あった。遺物の出土量は調査地北東のトレンチ4・5が多い。遺物包含層の下、トレンチ2・3では青灰色粘質土上面で直径30cm程度のピットを各1個確認した。周辺の出土遺物から古墳時代前期の造構と考えられる。トレンチ4では東西方向の水路と考えられる溝を確認した。トレンチ内の湧水のため断面での確認であったが、層位から奈良時代～中世の造構と考えられる。調査の結果、学校地のほぼ全域が遺跡であると判断される。

平成16年度：現在の実習棟の西側にトレンチを設定し調査した。基本的層序は15年度トレンチ1・2と同様であるが、遺物出土量は昨年に比べて僅かであり、造構も確認されなかつた。

平成15年度

トレンチNo	規模 (m)	面積 (m <sup>2</sup> )	検出遺構	出土遺物
1	9×4	36	なし	弥生土器・土師器・須恵器・瓦質土器
2	9.5×3.4	32.3	ピット 1	土師器・須恵器・土師質土器・陶磁器
3	10×4	40	ピット 1	弥生土器・土師器・須恵器・丹塗土師器・瓦質土器・陶磁器・土鏡
4	2.5×1.4	3.5	溝 1	土師器・須恵器・土師質土器・瓦質土器・陶磁器・瓦・鐵洋
5	5×2.5	12.5	なし	土師器・須恵器・丹塗土師器・土師質土器・瓦質土器・陶磁器・土鏡・窓席

平成16年度

トレンチNo	規模 (m)	面積 (m <sup>2</sup> )	検出遺構	出土遺物
1	7×3	21	なし	弥生土器・土師器・須恵器・土師質土器・瓦質土器・陶磁器・土鏡



## 9 長坂町地区（大境遺跡）

調査地点 倉吉市長坂町字大境 698-1 他  
 調査期間 平成15年9月22日～平成15年10月9日  
 調査契機 倉吉養護学校グラウンド整備  
 調査方法 トレンチによる試掘・確認調査  
 調査面積 192m<sup>2</sup>  
 調査担当 加藤誠司  
 調査概要 調査地は倉吉市街地南西の小鴨川右岸で、南から北へ延びる丘陵の先端である。標高は約36～39mで、現況は水田が開発に伴い売却され草原化していた。調査の結果、丘陵基部のトレンチ1の表土下0.6mで一辺約1.2mの土壙を1基、トレンチ6の表土下1.2mで柱穴1個を確認した。また、トレンチ14の表土下0.6mで水田跡を確認した。  
 トレンチ8を除く各トレンチで各時代の遺物が出土したが、古墳時代から中世の土器が中心である。全城に遺跡が広がると判断される。

トレンチNo	規模 (m)	面積 (m <sup>2</sup> )	検出遺構	出土遺物
1	15×2	30	土壙	縄文土器・土師器・須恵器・丹塗土師器・土師質土器・須恵質陶器・陶器片・散石・磨石
2	3×2	6	なし	土師器・須恵器・須恵質陶器・瓦質土器
3	5×2	10	なし	弥生土器・土師器・丹塗土師器・須恵器・土師質土器・磁器
4	10×2	20	なし	弥生土器・土師器・須恵器・土師質土器・瓦質土器・陶器
5	8×2	16	なし	土師器・丹塗土師器・須恵器・墨書き土器「東家」・土師質土器・武石
6	9×2	18	ピット 1	土師器・丹塗土師器・須恵器・土師質土器・瓦質土器・陶器・筒羽口片・铁滓・磨石
7	4×2	8	なし	土師器・須恵器
8	4×2	8	なし	なし
9	5×2	10	なし	弥生土器・土師器・丹塗土師器・須恵器・瓦質土器・磁器・磨石
10	5×2	10	なし	土師器・土師質土器
11	10×2	20	なし	縄文土器・土師器・須恵器・土師質土器・陶器
12	3×2	6	なし	土師器・土師質土器・磁器
13	8×2	16	なし	土師器・須恵器・土師質土器
14	7×2	14	水田跡	縄文土器・弥生土器・須恵器・瓦質土器・陶器・石斧



10 駄経寺町2丁目A・B地区（大御堂廃寺跡関連遺跡）

調査地点 A地区：倉吉市駄経寺町2丁目字五反田2-54

B地区：倉吉市駄経寺町2丁目7-1、7-2

調査期間 A地区：平成15年12月3日～平成15年12月11日

B地区：平成15年10月30日～平成15年11月14日

調査契機 土地売買

調査方法 トレンチによる試掘・確認調査

調査面積 A地区：36m<sup>2</sup>

B地区：31.4m<sup>2</sup>

調査担当 加藤誠司・岡平拓也

調査概要 A地区：史跡大御堂廃寺跡指定地南辺から南に約80～110mの地点を調査した。調査は南北にトレンチを3箇所設定して行った。基本的層序は上から①客土、②暗灰色土、③暗褐灰色土、④暗灰色粘土、⑤灰白色土、⑥黒色粘土である。うち③④層に中世以前の遺物を含み、トレンチ1では小型の塑像片が出土している。全体としては出土量が少なく、各遺物とも摩滅が激しい。③層及び④層での遺物による時期差は確定できなかった。トレンチ北端で、現代（耕地整理前）の水路跡を検出したが、外には遺構はない。

B地区：史跡大御堂廃寺跡の指定地南辺にはほぼ隣接する地点を調査した。調査は南北にトレンチを1箇所設定して行った。調査地の大半は鉄塔基礎のため搅乱されていた。搅乱が及んでいない部分の層序は、上から①客土②白色砂（区画整理時に入れたものか）③灰黑色土（旧水田耕作土）④黒灰色土⑤淡灰色土⑥淡青灰色粘質土⑦黒灰色粘質土⑧暗灰色砂質土となる。うち④・⑤は大御堂廃寺以降の遺物包含層で、土質は大御堂廃寺西限築地塀周辺の整地土に似る。⑥・⑦は繩文時代遺物の包含層である。トレンチ内各面で遺構は確認されなかつたが、土層からは周辺に大御堂廃寺もしくは松ヶ坪遺跡に伴う遺構が存在する可能性がある。

A地区

トレンチNo	規模(m)	面積(m <sup>2</sup> )	検出遺構	出土遺物
1	10×2	20	水路（現代）	縄文土器・土師器・須恵器・土師質土器・陶器・瓦・小型塑像断片
2	5×2	10	なし	縄文土器・土師器・須恵器・土師質土器・陶器・瓦・打製石斧
3	3×2	6	なし	土師器・須恵器・瓦・打製石斧

B地区

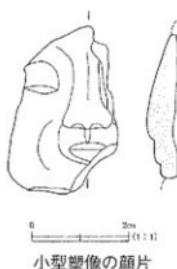
トレンチNo	規模(m)	面積(m <sup>2</sup> )	検出遺構	出土遺物
1	10×3 (一部掘削)	31.4	なし	縄文土器・土師器・丹塗土師器・須恵器・瓦・石斧



#### 小型塑像の顔片について

材質は精良な粘土製で、右目、鼻、口、頬の部分である。高さ3.4cm×幅2.2cm、厚さ0.2cm～0.6cmで仕上げ上部分が剥離した状態。その表情は穏やかで微笑んでいるように見える。

大御堂廃寺は約70点の塑像片が出土しているが、顔の部分は初めての出土である。その大きさから、小像で坐像とすると半尺程度と推定される。



## 11 海田東町地区

調査地点 倉吉市海田東町字若宮谷355-18、355-20、355-21、355-47、355-82、355-83、355-84

調査期間 平成15年11月18日～平成15年12月5日

調査契機 上井羽合線沿道土地区画整理事業に伴う墓地移転造成工事

調査方法 トレンチによる試掘・確認調査

調査面積 44.4m<sup>2</sup>

調査担当 岡平拓也

調査概要 開発予定地に4本のトレンチを設定し調査した。調査地は西に開く谷地形であり、谷筋の中央部分に「萬治四年」(1661)の年号の刻まれた供養塔が存在する。供養塔部分のトレンチ4では、石塔周辺を基壇状にやや高くし、周囲の山中に見られる石を縁取りとして並べ置き、供養塔正面に水鉢が設置された状況を検出しているため、供養塔はほぼ原位置を保っていると考えられるが、その周辺で出土したのは近現代の遺物であること、碑文には「宮谷平」の字名（調査地よりも約60m西、谷の出口の平野地）があることから、移設された状態である可能性もある。

石塔は、正面・北面は平らに加工してあるが、残り2面はほぼ未加工。検出面からの高さは1.7m、幅・奥行きとも約0.4m。正面および南面に文字を刻む。

他のトレンチでは、若干の遺物は出土するものの構造は確認されなかったため、供養塔は造成された新墓地内に移設されている。

トレンチNo	規模(m)	面積(m <sup>2</sup> )	検出遺構	出土遺物
1	6×2	12	なし	繩文土器・土師器・須恵器・土師質土器
2	11.5×2	23	なし	弦生土器・土師器・須恵器
3	5×1.4	7	なし	なし
4	1.6×1.5	2.4	供養塔	五輪塔・陶器・ガラス瓶





四

外語文庫

## 12 生田地区（平成15年度・16年度）

調査地点 倉吉市生田字山花663（平成15年度調査）、字石曾根435-2（平成16年度調査）

調査期間 平成15年11月18日～平成15年11月21日

平成16年5月11日～平成16年5月12日

調査契機 一般県道仙龍岡田線地方特定道路整備工事

調査方法 レンチおよびボーリング調査による試掘・確認調査

調査面積 40m<sup>2</sup>（平成15年度調査）、20m<sup>2</sup>（平成16年度調査）

調査担当 加藤誠司（平成15年度調査）、岡平拓也（平成16年度調査）

調査概要 平成15年度：基本層序は①耕作土②赤褐色土（床土）③褐灰色砂質土④砂礫層で、④層は浅い部分が表土下20cm、深い部分が表土下90cmで確認した。出土遺物はいずれも小片でまとまりではなく、河川の氾濫などによる流れ込みと判断される。遺構は確認されなかった。

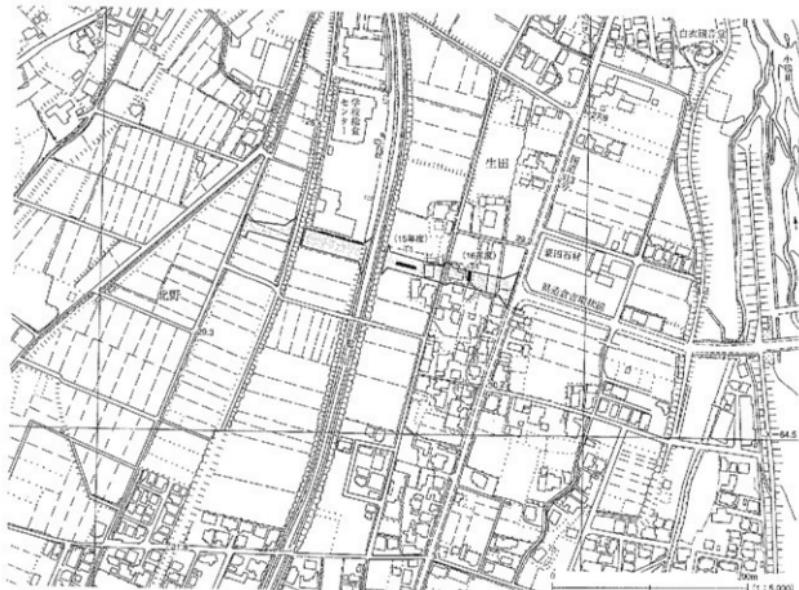
平成16年度：16年度は、平成15年度調査地の東側の部分を調査した。開発範囲内の畠地にトレーナーを1本設定し調査した。現耕作土の下はきめの細かい砂層、レキ層の順に変化する。耕作土から近現代の遺物と共に土師器がわずかと、砂層から鉄滓が1点出土しているが、開発予定地には遺跡が残っているとは考えにくい。

平成15年度

トレーナーNo	規模 (m)	面積 (m <sup>2</sup> )	候出遺構	出土遺物
1	20×2	40	なし	土師質土器・備前焼鉢・陶磁器

平成16年度

トレーナーNo	規模 (m)	面積 (m <sup>2</sup> )	候出遺構	出土遺物
1	10×2	20	なし	土師質土器・陶磁器・鐵滓



### 13 北野地区

調査地点 倉吉市北野字欠口307-7 から欠口318-2、319、字 鮎 329  
 調査期間 平成15年11月27日～平成15年12月 2日  
 調査契機 特定地方道路整備事業（市道北野8号線道路改良工事）  
 調査方法 トレンチによる試掘・確認調査及びボーリング調査  
 調査面積 48m<sup>2</sup>  
 調査担当 加藤誠司  
 調査概要 調査地は小鴨川左岸の沖積地で、現況は水田であった。東西に長い開発予定地のほぼ中央にトレンチ1、西寄りにグリッド1、東端にグリッド2を設定し掘り下げた。トレンチ1の基本層序は上から①耕作土（20cm）②造成土（40cm）③黒褐色土層（20cm）④灰色粘土層（20cm）で、トレンチ東端は表土下1.6m、西端では表土下2mで砂層となった。グリッド1・2の基本層序は上から①耕作土（20cm）②黒褐色土層（30cm）③茶褐色土層（10cm）でその下層は黄褐色土の地山である。遺構はいずれのトレンチ・グリッドとも確認できなかった。土器が少量出土するもののいずれも流れ込みと判断され、遺跡は存在しない。

トレンチNo	規模 (m)	面積 (m <sup>2</sup> )	検出 遺 構	出 土 遺 物
I	15×2	30	なし	土器類・須恵器・土師質土器・須恵質土器
G1	3×3	9	なし	土師質土器
G2	3×3	9	なし	なし



#### 14 寺谷A・B地区（寺谷石坂遺跡：A地区）

- 調査地点 A地区：倉吉市寺谷字北石坂平258、587-1  
               B地区：倉吉市寺谷字宮田157、字長谷114
- 調査期間 A地区：平成16年5月18日～平成16年6月2日  
               B地区：平成16年9月27日～平成16年10月6日
- 調査契機 一般国道313号交通安全歩行者道設置工事
- 調査方法 トレンチによる試掘・確認調査
- 調査面積 A地区：68m<sup>2</sup>  
               B地区：35m<sup>2</sup>
- 調査担当 間平拓也
- 調査概要 A地区：開発範囲内にトレンチを3本設定し調査した。開発範囲の南側の南緩斜面は、後世の耕作に伴う削平が著しいものの、縄文土器が出土した。南端のT1からは柱穴と考えられる落ち込みを確認した。現国道東側の同一地形の部分に遺物散布がみられ（寺谷石坂遺跡）、遺跡範囲が今回の調査地周辺まで広がると考えられる。
- B地区：開発範囲内にトレンチを3本設定し調査した。調査地は急峻な谷地形であり、遺跡は存在しない。

A地区

トレンチNo.	規模 (m)	面積 (m <sup>2</sup> )	検出遺構	出土遺物
1 (南半分範囲)	17×2	46	柱穴 1	縄文土器・瓦質土器
2	6×2	12	なし	縄文土器
3	5×2	10	なし	なし

B地区

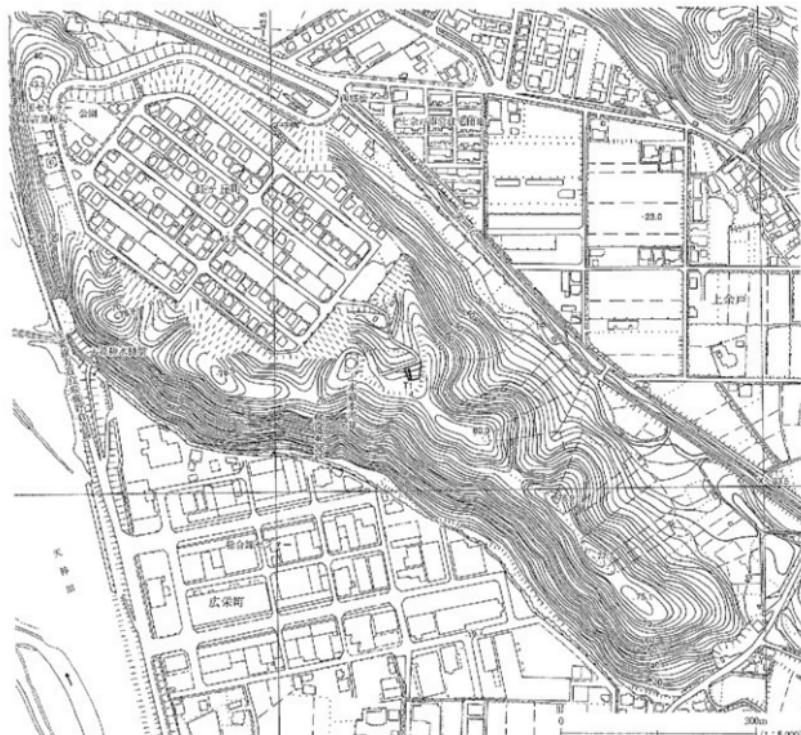
トレンチNo.	規模 (m)	面積 (m <sup>2</sup> )	検出遺構	出土遺物
1	5×2	10	なし	須恵器
2	8.5×2	17	なし	なし
3	4×2	8	なし	なし



## 15 上余戸地区

調査地点 倉吉市上余戸字奥小山587-238  
調査期間 平成16年6月8日～平成16年6月14日  
調査契機 NTT DoCoMo 倉吉虹ヶ丘基地局基礎設備工事  
調査方法 トレンチによる試掘・確認調査  
調査面積 24m<sup>2</sup>  
調査担当 岡平拓也  
調査概要 調査地は既に造成済みの畠地であった。トレンチを1本設定し調査した結果、開発予定地の2/3程度は旧地形が残っていたが、地山面は急峻な谷地形であり、開発予定地には遺跡は存在しなかった。

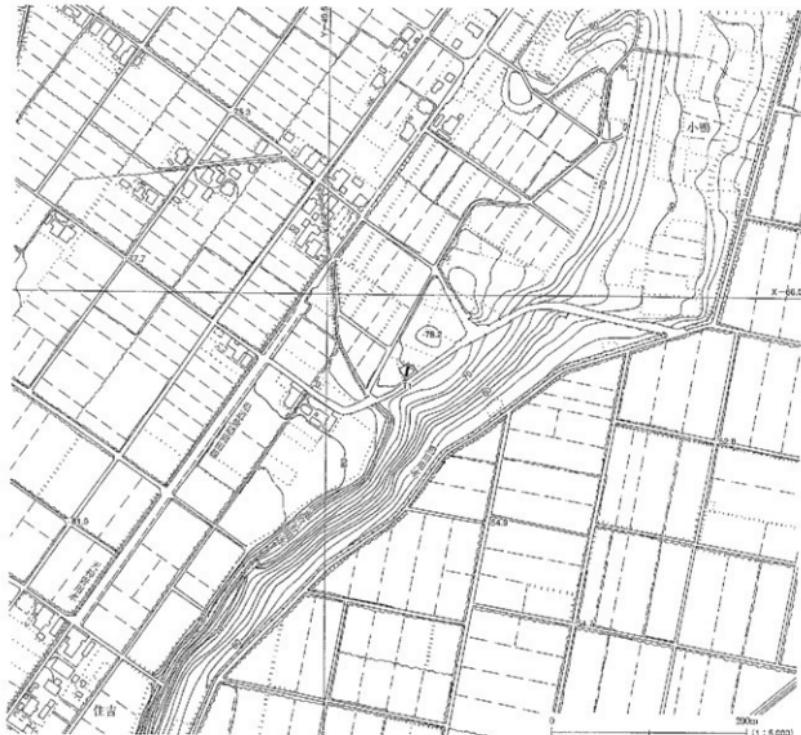
トレンチNo	規模(m)	面積(mf)	検出遺構	出土遺物
1	12×2	24	なし	縄文土器



## 16 小鴨地区

調査地点 倉吉市小鴨字平ラ 林 1324-6  
調査期間 平成16年 6月15日～平成16年 6月16日  
調査契機 NTT DoCoMo 倉吉小鴨基地局基礎設備工事  
調査方法 トレンチによる試掘・確認調査  
調査面積 22m<sup>2</sup>  
調査担当 岡平拓也  
調査概要 開発範囲内にトレンチを1本設定し調査した。地山面での旧地形はほぼフラットである。表土下から伯耆国庁編年第2段階後半の土師器小片が出土した。今回の調査地から南東に約500m離れた地点で確認した中林遺跡と同時期の遺物であり、中林遺跡が予想以上に広がる可能性があるが、今回のトレンチ内からは遺構は無かった。

トレンチNo	規模 (m)	面積 (m <sup>2</sup> )	検出遺構	出土遺物
1	11×2	22	なし	土師器・丹焼土師器・瓶



## 17 国府A地区

- 調査地点 倉吉市国府字西麻付2032  
調査期間 平成16年6月22日～平成16年6月23日  
調査契機 堆肥舎建設  
調査方法 トレンチによる試掘・確認調査  
調査面積 60m<sup>2</sup>  
調査担当 矢平拓也  
調査概要 開発範囲内にトレンチを1本設定して調査した。現地表から40～20cmで地山を確認した。地山までは全て耕作土化している。耕作土中で土師器？小片を1点確認したが、造構は無く、開発範囲内には遺跡は存在しないと考えられる。

トレンチNo	規模(m)	面積(m <sup>2</sup> )	検出遺物	出土遺物
1	30×2	60	なし	土師器



## 18 東仲町地区（下広小路遺跡）

調査地点 倉吉市 東仲町2574、2578、2578-1、2578-2

調査期間 平成16年7月15日～平成16年8月27日

調査契機 防災センター（仮称）建設工事

調査方法 トレンチによる試掘・確認調査

調査面積 45m<sup>2</sup>

調査担当 加藤誠司

調査概要 調査地は中心市街地に位置し、鳥取藩家老荒尾氏の陣屋から北へ約150mの地点である。

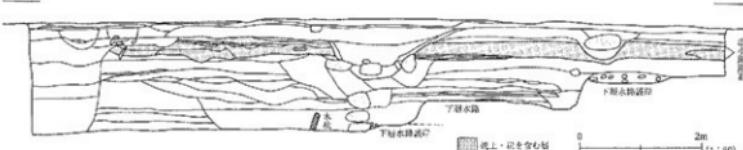
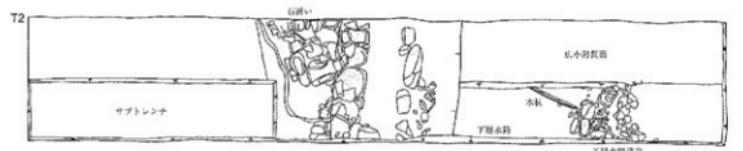
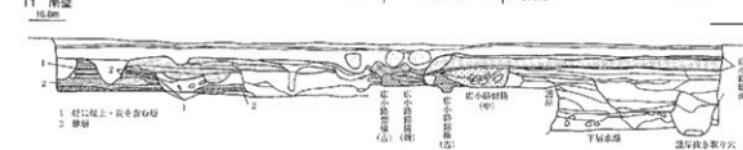
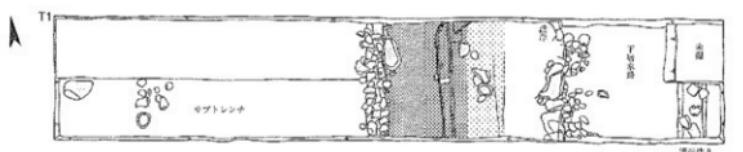
当該地は平成15年5月火災により焼失した地点で、倉吉市が活用を図ることとなり調査を行なった。

トレンチは南北2箇所を東西方向に掘り下げた。両トレンチの東側、表上下約0.3mにおいて約4.4m～4.8mの幅で下広小路の路面を確認した。路面の土は小石の混じる黄褐色で厚さ約0.2mある。この土は調査地内に無く、付近の山から搬入したとみられる。広小路の西端は側溝を伴う。特にT1では、断面の切り合いで、古・中・新の3時期の溝が認められ、中期の溝までは、前述した黄褐色の路面は無かったとみられる。古期の溝は幅1.4m以上・深さ0.2m、中期の溝は、検出面幅約1.1m・底幅約0.5m・深さ0.3mと縮小、新期には検出面幅約1.1m・底幅約0.4m・深さ0.2mと改修されている。古期には幅約0.2m・深さ約0.1mの南北溝が伴う。溝の西辺は割石の護岸を築き、その西側は焼土と炭が混じる層がある。トレンチ2はトレンチ1の様な溝の切り合いで未確認で上面の幅が約2.0mである。溝西辺はトレンチ1同様に護岸を築く。明確な建物跡を確認していないが、西側は宅地とみられ、焼土と炭が多く混じる層を主に2層確認した。また、洪水痕跡とみられる砂層も部分的に3層確認した。溝埋土や宅地層などから、江戸中期以降の伊万里焼を中心とする陶磁器類が出土した。なお、両トレンチ上層は直径50cm前後の明治期頃とみられる建物の基礎石が並ぶ。また、トレンチ2広小路溝西肩を壊す形で火を炕いたとみられる石匂いが存在する。

下層東側には広小路以前の江戸時代初期～中頃の水路が南北に走る。トレンチ1の水路は幅約2m・深さ0.7m、トレンチ2の水路は幅約3.6m・深さ約1m以上で、同一の水路かどうか不明である。下層の遺物は古唐津片、黄瀬戸片、煙瓦片、木製品（漆器椀、箸など）が出土。またトレンチ2西サブトレンチでは、木製品、煙管、煙瓦などが出土したが、湧水が著しく遺構は明確ではない。その下層は砂礫層で、遺構面は未確認である。

調査により下広小路西端を確認した。東端は不明で、魚町と東仲町の境を北流する水路まで約29m（16間）である。また、西側宅地で江戸時代の火災と、水害の跡を確認した。倉吉の主な火災記録は、①元禄8年（1695）に東仲町を含む779軒が焼失（『御在府日記』）。②寛延3年（1750）に小屋町（鍛冶町2丁目）から出火し、720戸余りが焼失した「鉄屋火事」と呼ばれる大火がある（『因府年表續編』）。「鉄屋火事」は、延宝元年（1744）との資料もある（『倉吉町誌』）。確認した焼土・炭層はこの2つの火事であるとも推定される。下広小路は、元禄年間作とみられる倉吉古地図（『倉吉町誌』）には表現がなく、寛延年間作とみられる伯耆国守屋敷町屋絵図（県立博物館蔵）に画かれ、伝承では鉄屋火事後に造られたという。下広小路は18世紀中頃成立したとみられるが、さらに今後の検討が必要である。

トレンチNo	規模(m)	面積(m <sup>2</sup> )	検出遺構	出土遺物
1	11×2	22	下庄小路 広小路下層に水路	陶磁器・瓦・鐵管・銅金具・古鏡・鐵洋・碁石・紙石・木製品
2	11.5×2	23		陶磁器・瓦・鐵管・古鏡・鐵洋・紙石・木製品

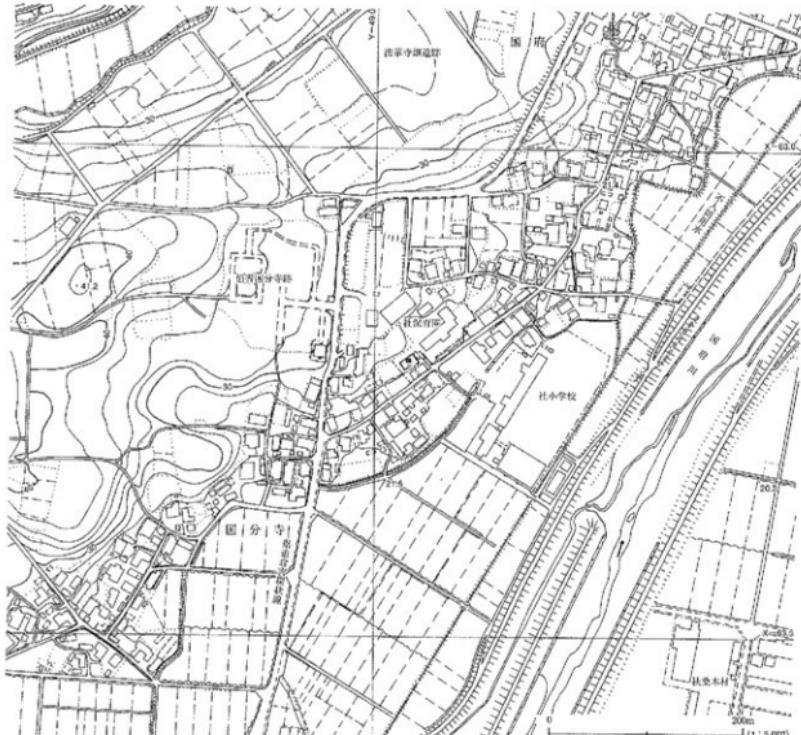


造構平面・断面図

## 19 国分寺地区（国分寺遺跡群）

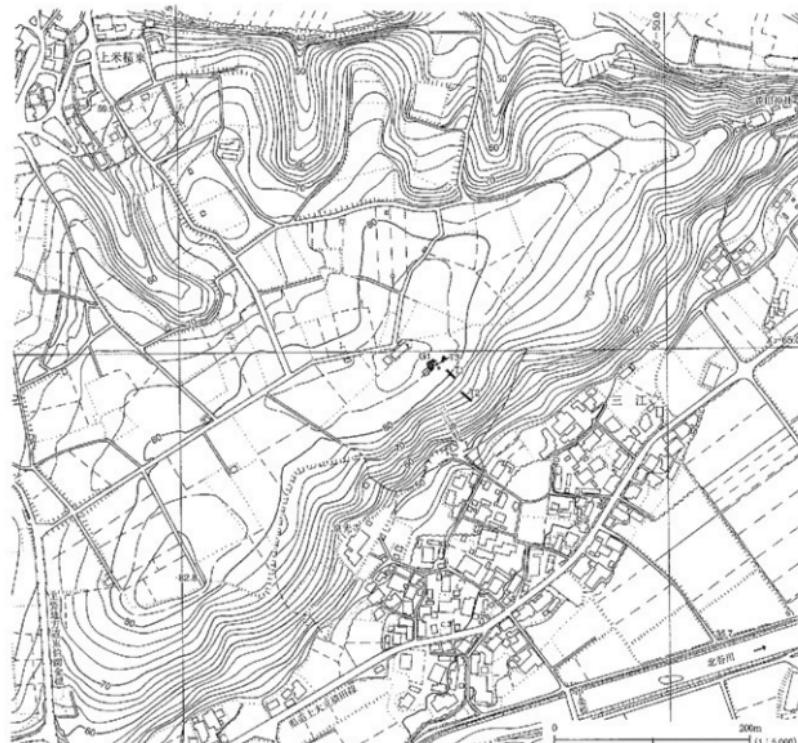
調査地点 倉吉市国分寺字東畠314  
調査期間 平成16年9月14日～平成16年9月16日  
調査契機 個人の住宅新築  
調査方法 トレンチによる試掘・確認調査  
調査面積 18m<sup>2</sup>  
調査担当 岡平拓也  
調査概要 開発範囲内に東西方向にトレンチを1本設定して調査した。現地表から50～90cmで地山を確認した。地山面は南東に向けて下るゆるやかな斜面となる。擾乱土が比較的深くまで存在するが、地山面は遺存している。遺構は確認されなかったが、奈良・平安時代の土師器・瓦が出土しており、周辺にも遺物散布が見られるため、遺跡が存在すると考えられる。

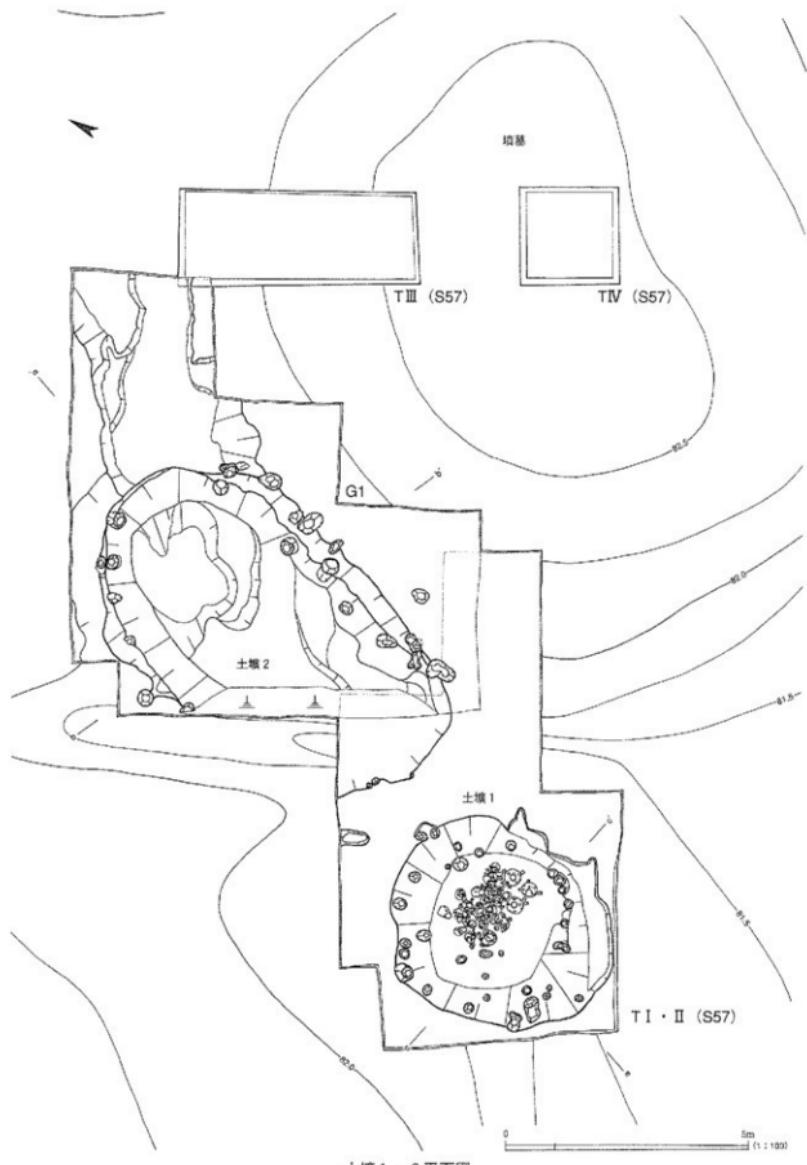
トレンチNo	規模 (m)	面積 (m <sup>2</sup> )	検出遺構	出土遺物
1	6 × 3	18	なし	土師器・瓦



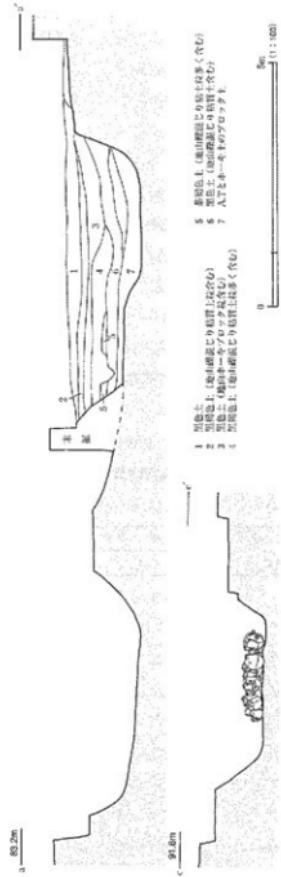
## 20 三江地区（上野遺跡）

- 調査地点 倉吉市三江字上野1154-1、1154-2  
調査期間 平成16年9月2日～平成16年10月28日  
調査契機 上野遺跡散策道の整備計画  
調査方法 トレンチによる試掘・確認調査  
調査面積 116.6m<sup>2</sup>  
調査担当 加藤誠司  
調査概要 現地は南西から北東へなだらかに延びる丘陵頂部の南端付近と南東斜面である。グリッド1は、昭和57年に子持壺形須恵器5個・脚付子持壺形須恵器20個（国指定重要文化財）が発掘された、土壙1のすぐ北側の土壙2を調査した。土壙2は同時に一部確認していたものである。規模は、長さ8.2m×幅4.8m、深さ最大1.3mの楕円形である。土壙は底部が約40cmの段差で北側の約半分が深くなっている。4m余りの土壙が2つ切り合っている可能性がある。ただし、断面では確認できていない。また、土壙の肩付近には不均一ながら柱穴とみられるピットが連続する。土壙2が2つの穴とすると、規模・形態が子持壺形須恵器





土壤 1 · 2 平面图



の出土した土壌1とよく似ている。このため、土壌2は、子持壺形須恵器の出土した土壌1と同様に、子持壺形須恵器を保管するための土壌で、すでに古墳へ子持壺を供給したため現地には残っていないとも考えられる。また、トレンチ1の包含層中で酸化状態の焼成となった須恵器片が数十点出土した。このため、近くに窯の存在を想定させる。

その他、前回調査で中世墓の可能性が指摘されたマウンドの周囲で、幅約2m深さ0.5mの周溝を確認した。またトレンチ3で $0.9 \times 0.7$ mの範囲に6個の石を並べ、付近から供獻土器（平安時代）とみられる土師器が2個体出土した。さらに、トレンチ1の周溝延長線上で長さ0.6m・幅 $\times 0.4$ m・深さ0.3mの隅丸長方形土壌を確認した。前回調査で推定したとおり、マウンドは墳墓とみられる。その規模は約20mである。

今後は須恵器窯と、供給先である古墳の発見に期待したい。

参考文献 名越勉「上野遺跡」「四王寺地域遺跡群遺跡詳細分布報告書」倉吉市教育委員会1982

トレンチNo	規格 (m)	面積 (m <sup>2</sup> )	検出遺物	出土遺物	
				土壌	溝
G1		54	土壌 1、溝 1	上部器・須恵器（酸化炎焼成のもの・転用碗あり）・丹塗土師器・土師質土器・磁器	
1	11×2 (試探)	22.8	土壌 1	須恵器	
2	13×2	26	なし	なし	
3	6×2 (試探)	13.8	溝 1	土師器・須恵器（酸化炎焼成のものあり）・丹塗土師器・土師質土器	

21 上福田地区（観音堂7号墳）

調査地点 倉吉市上福田字観音堂818-2

調査期間 平成16年12月22日～平成17年1月5日

調査契機 NTT DoCoMo 羽合長瀬基地局基礎設備工事

調査方法 トレンチによる試掘・確認調査

調査面積 18m<sup>2</sup>

調査担当 加藤誠司

調査概要 予定地は国府川左岸の丘陵上に位置する。国府川に突き出た尾根の先端部付近は、周知の観音堂古墳群6基が存在し、先端の1号墳の一部を県道改良工事に伴って発掘調査している。また、丘陵上は農地造成に伴い観音堂遺跡の発掘調査を行なっており、弥生時代の住居跡や奈良時代の掘立柱建物が確認された。

現地は、笹竹・雑木が密生していたため伐採したところ、古墳状の緩やかな高まりを確認した。このため、平板測量を実施後に墳頂から墳裾とみられる部分に幅2m長さ9mのトレンチを設定し調査した。

その結果、古墳の中心主体とみられる箱式石棺墓の一部を表土下0.1～0.2mで確認し、また、幅約1m・深さ約0.2mの周溝の一部を確認した。古墳の規模は直径約12～13m前後とみられる。開発にあたっては事前の発掘調査が必要である。

トレンチNo	規模(m)	面積(m <sup>2</sup> )	検出遺構	出土遺物
1	2×9	18	古墳(箱式石棺墓)	土師器・須恵器



## 22 伯耆国府跡第9次調査

調査地点	倉吉市国府1485-1、1485-3、国分寺452-1、452-4
調査期間	平成16年11月8日～平成17年2月17日
調査契機	史跡伯耆国府跡確認調査
調査方法	トレンチによる確認調査
調査面積	647m <sup>2</sup>
調査担当	加藤誠司
調査概要	調査は外郭西側限付近とその西側に3箇所、外郭西側南限付近にトレンチを1箇所設定し掘り下げた。8次調査同様に、遺構を確認した場合必要に応じて拡張した。

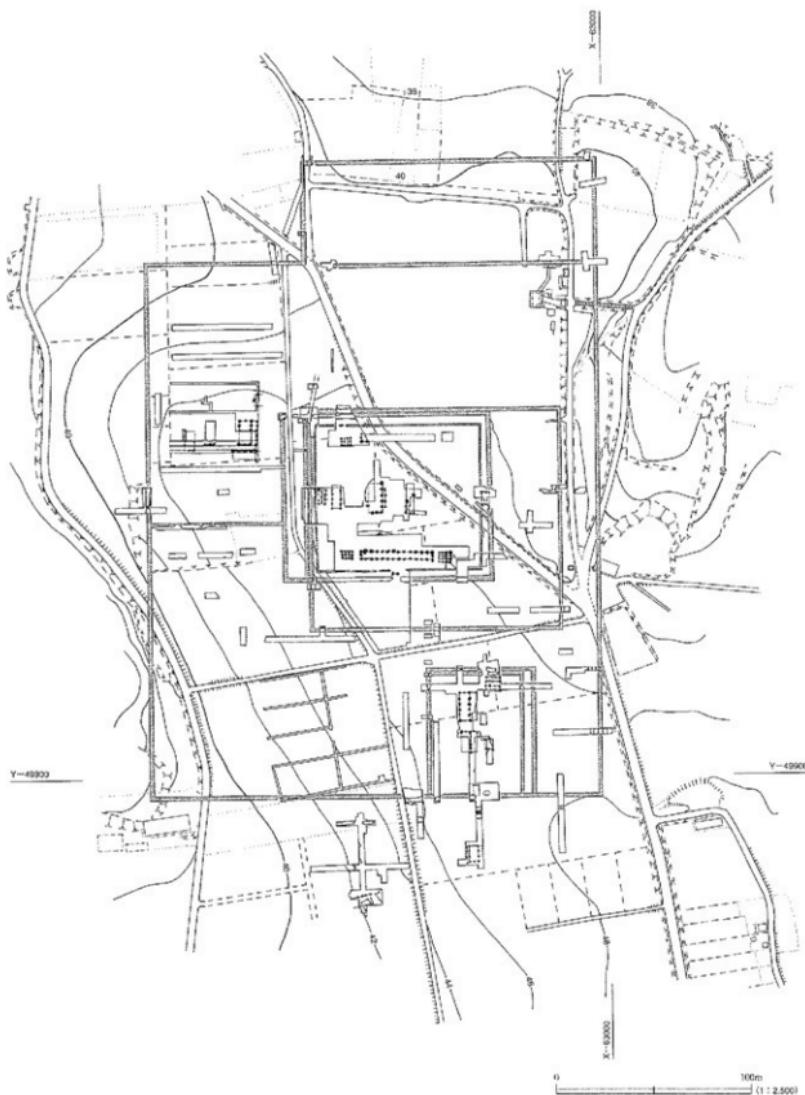
掘立柱建物はSB43・44をトレンチ1で確認した。どちらも正方位の東西棟で西方官衙のSB20・24とはほぼ南面が揃う。SB43は梁行3間×桁行2間(8m×4.8m)で南面から約1.8mにピットが3個と、北面から約0.9mにピットが4個並ぶ。南面西端にピットの無い箇所があり、北側が狭く間隔もやや揃わないが2面庇の可能性もある。SB44は梁行2間×桁行1間(5.0m×2.5m)の規模。北西隅の柱が6次調査時のSD04と切り合っていたことが判明した。西限溝の西7mと10mで、幅約2.0m深さ0.8mと同規模の並行する南北溝SD43とSD44を確認した。溝と溝の間には、長さ約1.5m幅0.4m深さ0.2mの穴、SF03が南北に連なり、埋め土は堅く締まる。道路状遺構とみられるが隣接するトレンチでは未確認で長くはない。国府外郭の南限付近のトレンチ4では7条の東西溝を確認した。このうち南から2条目、3条目の溝は5次調査時のSD28・30と規模・形態から同一の溝と判断する。切り合いでSD28が古くSD30が新しい。溝は各トレンチで確認したが、展開の分かるものはSD45のみである。SD45はSD42とSD43に西肩を接して切る。正方位ではなく時期は新しい。

SK17はSD04(西限溝)延長線上の2mほど内側にあり、長さ3.1m×2.2m深さ1.4mである。埋土中から墨書き土器を含む多くの遺物が出土した。

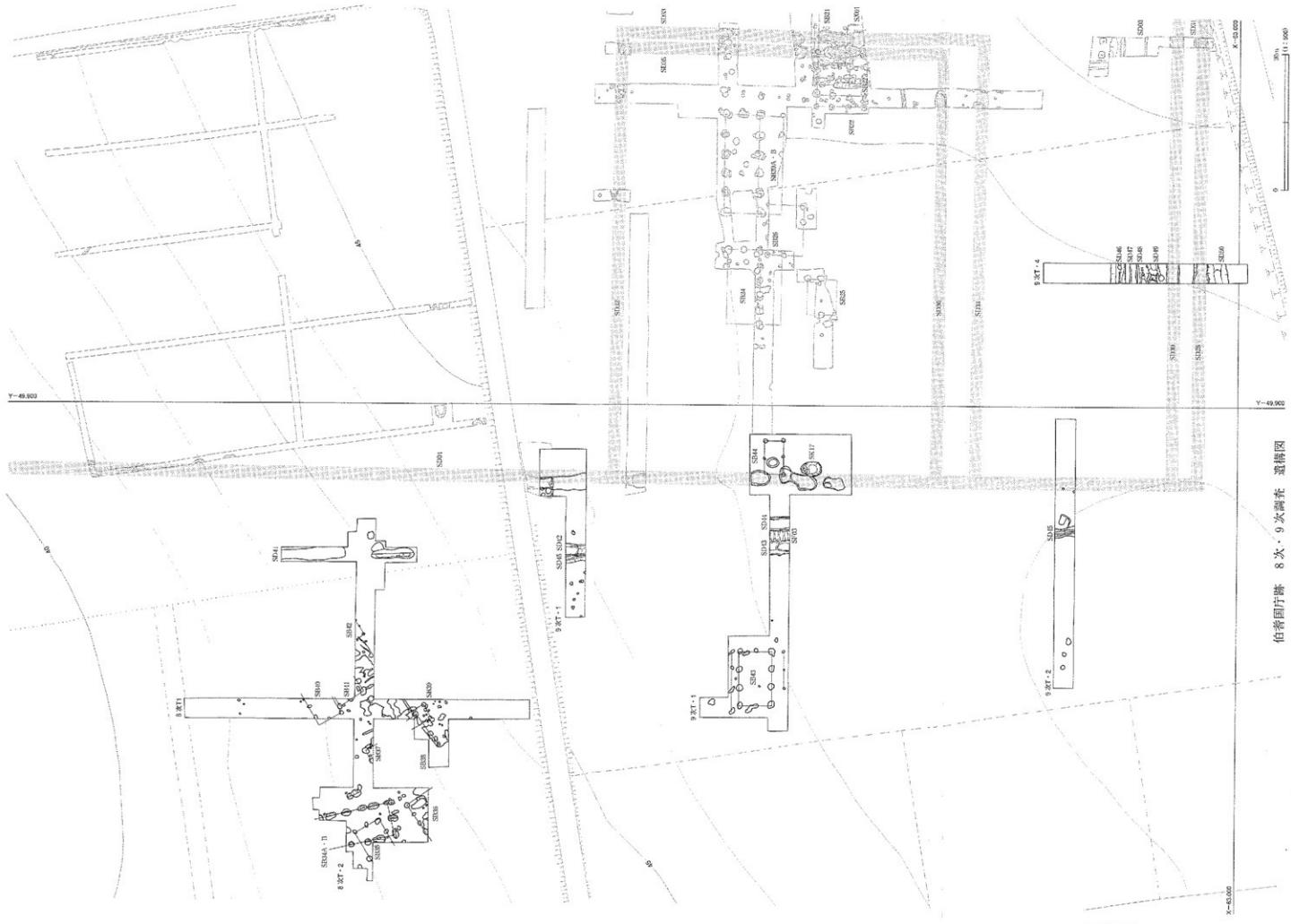
出土遺物 石製の巡方(小孔)がSD43埋土から出土。縦3.5cm×横3.8cm厚さ0.6cm、薄い緑から白色である。墨書き土器はいずれもSK17とその付近で出土。「山守」は古代行政区画の旧久米郡山守郷を示す。「汗入」も現在の西伯郡中山町・名和町・淀江町付近の郡郷名である。「守酒殿」は守(国司)が使う酒を保管するところの意味である。これらはいずれも土師器外面に書かれたもので、「守酒殿」は光明皿として使用されたもの。

9次調査によって新たに、溝や掘立柱建物を確認した。これにより、SD43・44の展開とSD04(西限溝)・西方官衙・道状遺構との関係がどうであったのか。また、西限外郭溝がトレンチ3で未確認であることと、南限溝の展開がどうなるのか、など新たな課題が浮上した。今後の調査課題とする。

トレンチNo	規模(m)	面積(m <sup>2</sup> )	検出 遺 構	出 土 遺 物
1	44×3 (拡張)	132 202	掘立柱建物2、溝3、 道状遺構1、土壌1	丹後土師器・須恵器(内面鏡・軸用鏡あり)・瓦・吉鉢・培塿・取瓶・輪羽口・石帶
2	40×3	120	溝1	丹後土師器・須恵器・土鍬
3	25×3 (拡張)	75 28	溝3	丹後土師器・須恵器・土鍬
4	30×3	90	溝7	丹後土師器・須恵器



伯耆国庁跡 全体図



### 23 清谷地区（萬燈山遺跡）

調査地点 倉吉市清谷字萬燈山1098-40、1098-41  
 調査期間 平成17年1月11日～平成17年1月14日  
 調査契機 NTT DoCoMo 羽合長瀬基地局基礎設備工事  
 調査方法 トレンチによる試掘・確認調査  
 調査面積 51m<sup>2</sup>  
 調査担当 加藤誠司  
 調査概要 予定地は、倉吉市北東部に湯梨浜町と接して南北に延びる大平山の北端近く、丘陵尾根上の鞍部に位置する。標高は約80～82mで平野との差は約75mである。隣接地には周知の古墳が点在し、山全体が大平山古墳群である。  
 現地は安山岩質の岩が点在しており、横穴式石室の可能性を想定しつつ、等高線と並行して幅2mのトレンチ1を設定し調査した。その結果、表土下約0.2～0.3mで、0.1～0.2m規模の板石集中部分を約1×0.7mの隅の丸い長方形で確認した。さらに、地表面に点在する岩の性格を捉えるため、岩に接する形でトレンチ1に直角にトレンチ2を設定し調査した。その結果、岩が横穴式石室の一部である確証は得られず、自然の露頭である可能性が高い。トレンチ1と類似する板石集中部分を約1.2×0.8mの隅の丸い長方形で確認した。遺物は未確認であるが、形態からいずれも中世墓と判断する。開発にあたっては、事前の発掘調査が必要である。

トレンチNo	規模(m)	面積(m <sup>2</sup> )	検出遺構	出土遺物
1	2×18.5	37	中世墓 1	須恵器
2	2×7	14	中世墓 1	なし



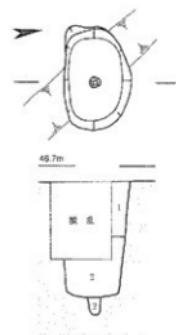
## 24 国府B地区（白市遺跡）

- 調査地点 倉吉市国府字白市1562  
 調査期間 平成17年1月26日～平成17年2月9日  
 調査契機 鳥取県立倉吉農業高等学校豚舎改築及びバイオマス施設整備事業  
 調査方法 トレンチ・グリッドによる試掘・確認調査  
 調査面積 216m<sup>2</sup>  
 調査担当 加藤誠司  
 調査概要 トレンチ1は表土下直ぐに客土が数cm～10cmあり、その下は急に地山のホーキ層となる。黒色土は地山の地形が低くなる西端だけ若干存在するが、ほぼ全体の黒色土が削られている。トレンチ2は耕作土下20cm～30cmで礫混じり粘質土層となり、掘削がかなり下層まで及んでいる。したがって、豚舎予定地は遺構の存在する可能性は低いと判断した。  
 トレンチ3・4は表土下が真砂土または、D.K.P.層と黒色土混じりの客土で、地山は表土下約20cm～30cmで礫混じり粘質土層やD.K.P.層となる。バイオマス施設予定地の全域に深い掘削が及び遺構は存在しない。  
 グリッド1は表土下30cmで地山のホーキ層となる。大半が客土の真砂土で、黒色土は南側斜面に若干ある程度である。縄文時代と推定される落し穴と時期不明の柱穴2個を確認し完掘した。したがって、受水槽予定地の周辺を開発する場合は本調査が必要である。

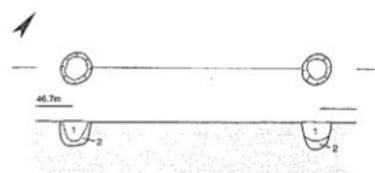
トレンチNo	奥横(m)	面積(m <sup>2</sup> )	検出道構	出土道物
G1	4×4	16	落し穴1、柱列1	なし
1	18×2	36	なし	なし
2	22×2	44	なし	なし
3	34×2	58(T4除)	なし	弥生土器
4	31×2	62	なし	弥生土器



1号落し穴



1号柱列



1 黒包土  
2 黒包土 (湖山ブロックを含む)

0 1m (1:40)

## 報告書抄録

書名	倉吉市内遺跡分布調査報告書					
調査名	—					
番次	13					
シリーズ名	倉吉市文化財調査報告書					
シリーズ番号	第123集					
編著者名	森下哲哉・鶴鉢智津子・加藤誠司・岡平拓也					
編集機関	倉吉市教育委員会					
所在地	〒682-8611 島根県倉吉市美町722番地 TEL 0858-22-4419					
発行年月日	西暦2005年3月18日					
所収遺跡名	所在地	コード	北緯	東経	調査期間	調査面積(㎡)
	市町村: 遺跡記号					
山ノ鼻遺跡	倉吉市大字山ノ鼻	312037: 4 AOY	35° 27' 21"	133° 51' 08"	20030424~20030502	38
伯耆國疗路第8次調査	倉吉市国府・国分寺	312037: 6 HHM・8	35° 25' 43"	133° 47' 08"	20030609~20030911	480
中絆遺跡	倉吉市上古川字中絆	312037: 7 MKN	35° 23' 57"	133° 47' 06"	20030716~20030722	18
向野遺跡	倉吉市大字向野	312037: 6 TOM	35° 25' 51"	133° 47' 09"	20030904~20030919 20031212~20040108	36 42
下古川上通り遺跡	倉吉市下古川字上通り、字宝大寺	312037	35° 27' 25"	133° 50' 08"	20030908~20031024 20040615~20040616	124.3 21
大槻遺跡	倉吉市长坂町字大槻	312037: 2 MNO	35° 24' 33"	133° 48' 42"	20030922~20031009	192
人御堂寺跡周辺遺跡	倉吉市人御堂寺跡周辺	312037: 6 UDO	35° 23' 38"	133° 50' 26"	20031203~20031211 20031030~20031114	36 31.4
寺谷石板遺跡	倉吉市寺谷字北石板甲、字寅田、字長洋	312037	35° 27' 30"	133° 48' 53"	20040518~20040602 20040927~20041006	68 35
下広小路遺跡	倉吉市東仲町	312037	35° 25' 42"	133° 49' 38"	20040715~20040827	45
国分寺遺跡群	倉吉市国分寺 東畠	312037	35° 25' 44"	133° 47' 35"	20040914~20040916	18
殿音堂7号墳	倉吉市上福田字殿音堂	312037: 4 EKK	35° 25' 36"	133° 44' 44"	20041222~20050105	18
伯耆國疗路第9次調査	倉吉市国府・国分寺	312037: 6 HHM・9	35° 25' 41"	133° 47' 09"	20041110~20050217	647
萬燈山遺跡	倉吉市酒谷字萬燈山	312037	35° 28' 30"	133° 51' 39"	20050111~20050114	51
山市遺跡	倉吉市山市字山市	312037: 3 NKS	35° 26' 03"	133° 46' 47"	20050126~20050209	216

倉吉市における各種開発事業に伴う事前の分布調査

所歴遺跡名	種類	主な時代：土佐遺構	主な遺物	特記事項
山ノ鼻遺跡	古墳	古墳：溝	土師器・鉄劍	古墳周溝と考えられる溝を確認
伯耆国序跡第8次調査	官衙	奈良・平安：掘立柱建物9 溝1	土師器・織目土器・須恵器・軒用鏡・鉄津・施羽口・土埴・石錐・礫石・砥石片	国府西限溝のさらに西側で、正方位ではない掘立柱建物を確認。国府の実務的空间とみられるが、7世紀後半の須恵器も出土しており、国府以前の遺構である可能性もある。
中林遺跡	集落	奈良・平安：柱穴3	瓦・墨書き土器・土師器・須恵器	奈良・平安時代の集落の可能性がある
西野遺跡	集落	奈良・平安：掘立柱建物3 造成段1	土師器・須恵器	2次調査同様奈良・平安時代の集落が存在する。 1次調査で確認していた造城段と同様の造城段を確認。
下古川上通り遺跡	集落	古墳：ピット2 奈良～中世：溝	土師器・須恵器・瓦質土器・陶磁器	古墳時代の遺物は大甕の破片が多く、集落が存在する可能性がある。
大境遺跡	集落	：土壤1・ピット1 水田跡1	绳文土器・沐生土器・須恵器・土師器・土師質土器・瓦質土器・陶磁器・墨書き土器	丘陵の縁辺部で集落の一部を確認。北側の低地では、水田跡が存在する。
大保堂寺跡周辺遺跡	奈良 繩文		陶像・瓦・打製石斧	特に遺構はないものの、遺物包含層から瓦などと共に塑像片が出土した。
			瓦・绳文土器・打製石斧	遺物包含層の状況から、大御堂寺跡及び松ヶ坪遺跡の中である可能性がある。
寺谷石坂遺跡	绳文	绳文：ピット1	绳文土器	绳文時代の柱穴と考えられるピットを検出。
下広小路遺跡	近世	江戸：道1・細溝1・水路2	陶器・瓦・埴輪・銅金具・古鏡・鉄津・碁石・砾石・木製品	下広小路西端とその側溝を確認。その西側は宅地とみられ、江戸期の火災跡水害跡がある。下層は江戸初期から中期の水路。
国分寺遺跡群		奈良・平安	瓦・土師器・須恵器	伯耆国分寺跡の南東外で同時期の遺物散布地を確認。
上野遺跡	古墳 中世	古墳：土壤1 中世：土壤1・溝1	土師器・須恵器・土師質土器	子持壺形須恵器を保管していた可能性がある土器を確認。
綾音堂7号墳	古墳	古墳：古墳1 (絶式石棺墓1・周溝1)	土師器・須恵器	10m余りの規模をもつ古墳1基を確認。
伯耆国序跡9次調査	官衙	奈良・平安：掘立柱建物2 溝11・造状遺構1・土壤1	土師器・須恵器(円筒鏡・軒用鏡)・瓦・埴輪・取輪・施羽口・石帶・土埴	国府西限溝の西約10mで南北溝を2条、その外側で両方位の掘立柱建物を確認。
萬燈山遺跡	中世	中世：中世墓2	須恵器	中世墓とみられる割石の箇所を確認。
白市遺跡	集落	绳文：落穴1 柱列	弥生土器	丘陵の縁辺部で集落の一部を確認。

平成15年度・16年度調査

地区名	圆数N	遺物名	出土位置	地区名	圆数N	遺物名	出土位置
大平町	1-1	鐵劍	T 2	駿経寺町2丁目B	12-9 10	石斧 石斧	T 1 T 1
佐喜市国野第8次鉱	3-1	石鎚	T 1	生田	14-1 2 3	伊万里燒 瓶 備前燒 酒器 備前燒 酒器	T 1 T 1 T 1
	2	石鎚	T 1	寺谷A	16-1 2	編文土器 編文土器	T 2 T 1
	3	石鎚	T 2	東仲町	20-1 2	野九瓦 野九瓦	T 2 T 2
	4	磨石	T 2		3	野九瓦 野九瓦	T 2
	5	砾石	T 2		4	野九瓦 野九瓦	T 2
	6	砾石	T 1		5	野九瓦 野九瓦	T 1
	7	手捏土器	T 1		6	野九瓦 鬼瓦	T 1
	8-11	土鍬	T 1		7	赤瓦 赤瓦	T 2
	12-17	土鍬	T 2		8	赤瓦 赤瓦	T 1
	18	須恵器 环	T 1		9	赤瓦 赤瓦	T 1
	19	須恵器 环身	T 1		10	赤瓦 赤瓦	T 2
	20	土師器 (墨呂)「等々」	T 1		11	赤瓦 赤瓦	T 1
上古用	4-1	土師器 (墨呂)	T 1		12	赤瓦 亮瓦	T 1
	2	土師器 (墨呂)	T 1		13	亮瓦 亮瓦	T 1
	3	土師器 瓢	T 1		14	亮瓦 通宝	去採
	4	土師器 环	T 1		15	亮瓦 通宝	T 1
	5	須恵器	T 1		16	亮瓦 通宝	T 1
	6	瓦	T 1		17	亮瓦 通宝	T 2
	7	瓦	T 1		18	亮瓦 管	T 1
大谷A	5-1	土師器 (粗製)	T 1		19	亮瓦 管	T 2
	2	土師器 (粗製)	T 1		20	亮瓦 管	T 2
	3	土師器 (粗製)	T 1		21	亮瓦 管	T 2
	4	土師器 (粗製)	T 1		21-1	紅頭 茶碗	T 1
	5	土師器 瓢	T 1		2	茶碗	T 1
	6	土師器 瓢	T 1		3	茶碗	T 2
	7	土師器 瓢	T 1		4	茶碗	T 1
	8	土師器 瓢	T 1		5	茶碗	T 2
	9	土師器 瓢	T 1		6	茶碗	T 1
	10	土師器 瓢	T 1		7	茶碗	T 1
	11	土師器 瓢	T 1		8	茶碗	T 1
	12	土師器 瓢	T 1		9	茶碗	T 1
	13	瓦	T 1		10	茶碗	T 1
小田	8-1	弥生土器 姥	T 5		11	茶碗	T 1
	2	弥生土器 瓢形器合	T 5		12	唐津燒 瓢	T 2
	3	土師器 瓢环	T 5		13	唐津燒 瓢	T 2
	4	土師器 瓢环	T 5		14	吉古燒 瓢	T 2
	5	土師器 瓢环	T 5		15	吉古燒 瓢	T 2
	6	土師器 瓢环	T 4		16	吉古燒 瓢	T 2
	7	土師器 瓢环	T 3		17	吉古燒 瓢	T 1
	8	土師器 瓢环	T 3		18	吉古燒 瓢	T 1
	9	土師器 瓢环	T 3		19	吉古燒 瓢	T 1
	10	土師器 姥	T 4		22-1	吉古燒 瓢	T 2
	11	弥生土器 姥	T 4		2	吉古燒 瓢	T 2
	12	須恵器 盖	T 3		3	吉古燒 瓢	T 2
	13	瓦	T 4		4	吉古燒 瓢	T 2
	14	須恵器 千利鉢	T 1		5	吉古燒 瓢	T 2
	15	須恵器 千利鉢	T 1		6	吉古燒 瓢	T 2
	16	須恵器 千利鉢	T 4		7	吉古燒 瓢	T 1
下古用	17	土鍬	T 1		8	吉古燒 瓢	T 1
	18	土鍬	T 1		9	吉古燒 瓢	T 1
長坂町	9-1	須恵器 (墨呂)「東家々」	T 5		10	吉古燒 瓢	T 1
	10-1	磨石	T 6		11	吉古燒 瓢	T 1
	2	敲石	T 1		12	吉古燒 瓢	T 2
	3	磨石	T 1		13	吉古燒 瓢	T 2
	4	台石	T 1		14	吉古燒 瓢	T 2
	5	砾石	T 5		15	吉古燒 瓢	T 2
	6	砾石	T 9		16	吉古燒 瓢	T 2
	7	砾石	T 6		17	吉古燒 瓢	T 1
	8	砾石	T 6		18	吉古燒 瓢	T 1
	9	砾石	T 6		19	吉古燒 瓢	T 1
	10	石斧	T 14		20	吉古燒 瓢	T 1
	11	鐵文土器	T 1		21	吉古燒 瓢	T 1
	12	鐵文土器	T 14		22	吉古燒 瓢	T 1
	13	弥生土器 瓢环	T 3		23	吉古燒 瓢	T 1
	14	須恵器 瓢环	T 6		24	吉古燒 瓢	T 1
	15	土師器 瓢环	T 3		25	吉古燒 瓢	T 1
	16	土師器 瓢环	T 6		26	吉古燒 瓢	T 1
	17	土師器 瓢环	T 9		27	吉古燒 瓢	T 2
	18	瓦質土器 瓢釜	T 9		28	吉古燒 瓢	T 2
	19	瓦質土器 瓢釜	T 5		29	吉古燒 瓢	T 1
	20	瓦質土器 瓢釜	T 9		30	吉古燒 瓢	T 1
駿経寺町2丁目A	12-1	土師器 瓢	T 1		31	吉古燒 瓢	T 1
	2	土師器 粗製	T 1		32	吉古燒 瓢	T 1
	3	石斧	T 2		33	吉古燒 瓢	T 1
	4	石斧	T 3		14-16	吉古燒 瓢	T 1
	5	瓦	T 1		17-21	吉古燒 瓢	T 1
	6	瓦	T 2		22	吉古燒 瓢	T 3
	7	須恵器 瓢环	T 1		23-25	吉古燒 瓢	T 1
	8	須恵器 瓢环	T 1		26	吉古燒 瓢	T 2



1 大平町地区  
△トレンチ 1 (東から)  
△出土遺物 1 : 1



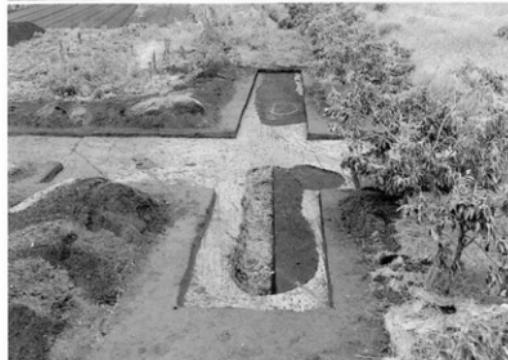
2 国府A地区  
トレンチ 1 (東から)



3 国府D地区  
トレンチ 1 (南から)



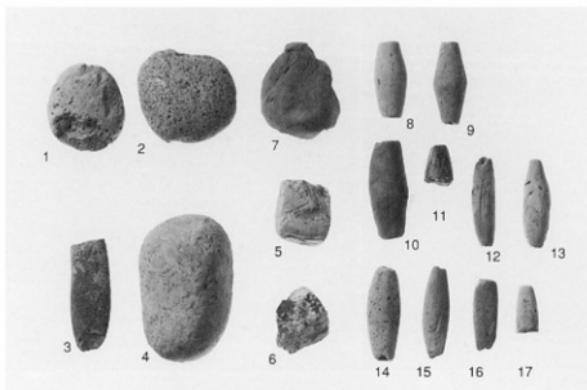
4 国府第 8 次調査  
トレンチ 1 SB38・SB39 (南東から)



トレンチ 2 SD41 (南から)



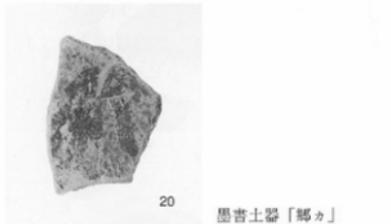
トレンチ 2 SB34A・B (南から)



出土遺物 1 : 3



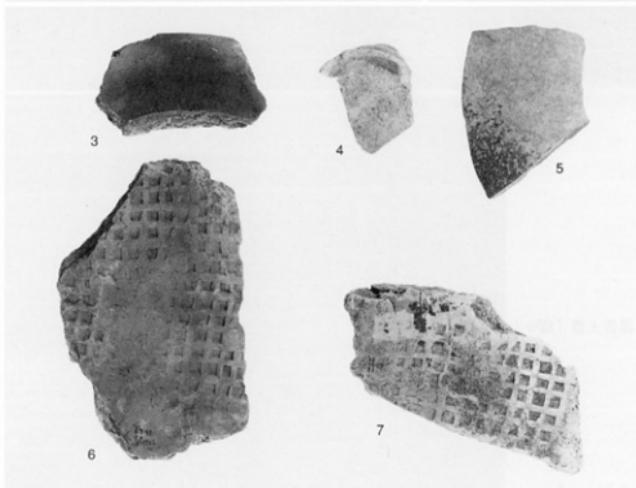
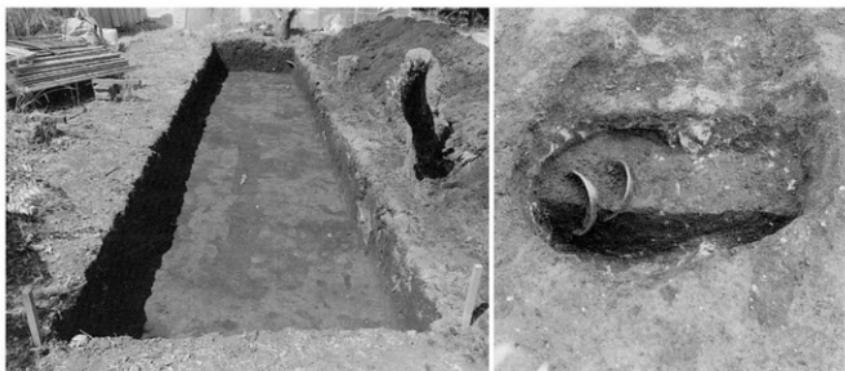
出土遺物



20

墨吉土器「郷カ」

出土遺物 1 : 1



5 上古川地区

△トレンチ1(南から)

▷遺物出土状況

△ピット内出土

土師器(墨書)1:1

▷ピット内出土

土師器(墨書)1:1

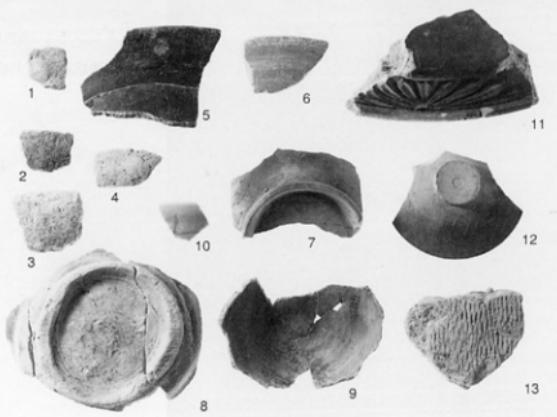
出土遺物1:3



6 尾田地区  
トレンチ 1 (西から)



7 大谷 A 地区  
△トレンチ 1 (東から)  
▷トレンチ 2 (北西から)



出土遺物 1 : 3



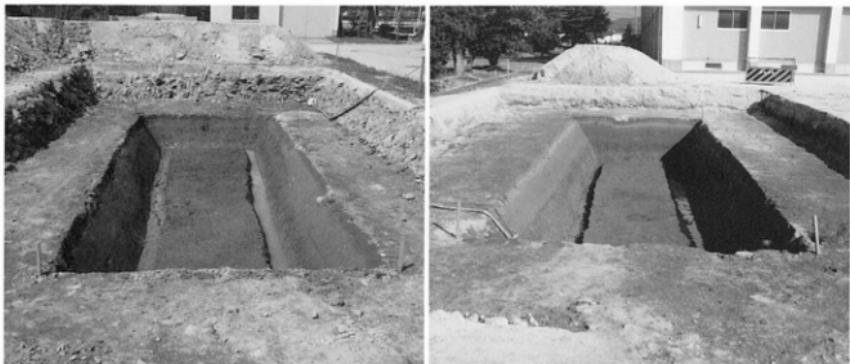
7 大谷B地区  
トレンチ 1 (北西から)



トレンチ 1 (南西から)  
造成段 工具痕



トレンチ 2 (東から)



8 小田地区

- △トレンチ 1 (東から)
- ▷トレンチ 3 (西から)
- △トレンチ 2 (北から)



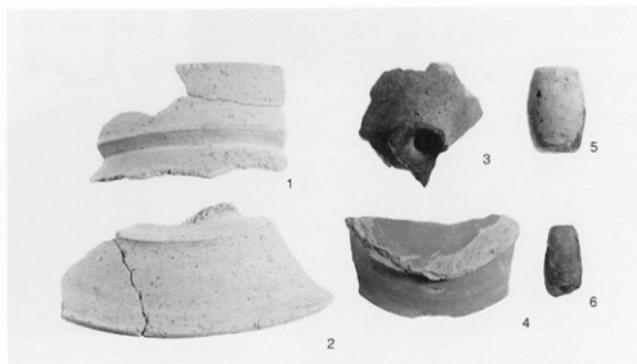
△トレンチ 4 (西から)

8 下古川地区

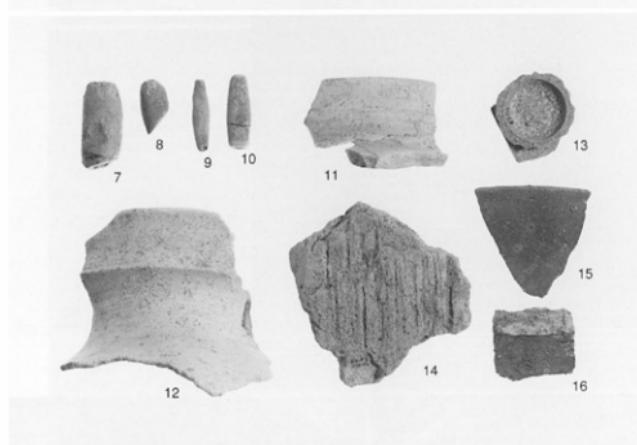
- ▷トレンチ 1 (南から)



图版 8



8 小田地区  
出土遗物 1 : 3



出土遗物 1 : 3



8 下古川地区  
出土遗物 1 : 3



9 長坂町地区  
トレンチ 1 (南東から)



トレンチ 14 水田跡 (南東から)



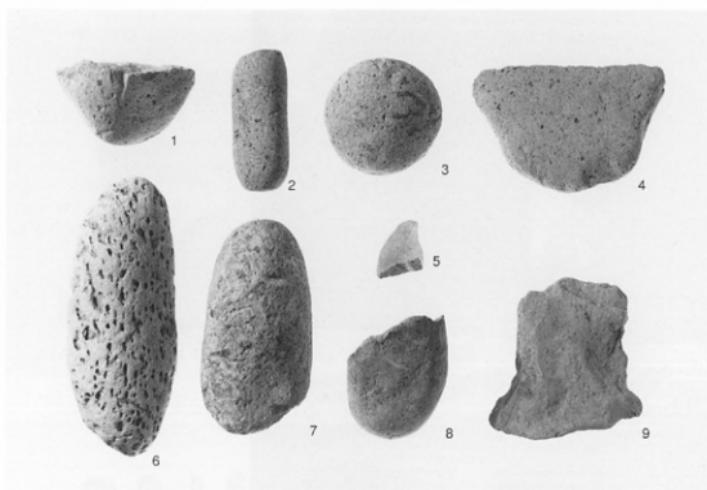
トレンチ 14 水田跡 (南西から)



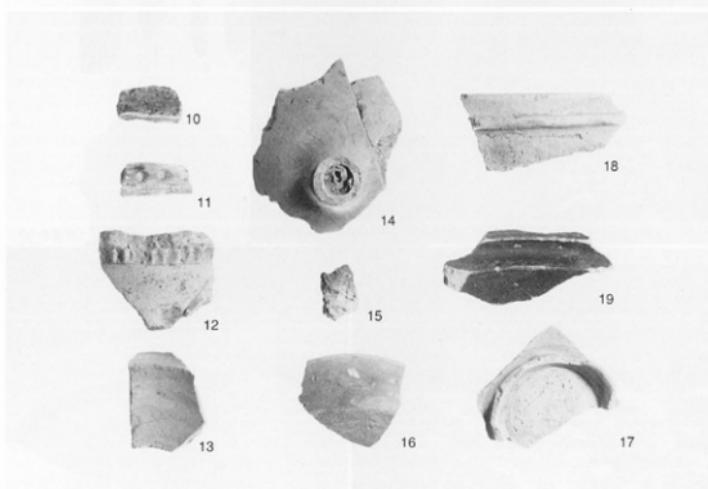
トレンチ 5 出土壌黄土器「東家カ」

1 : 1

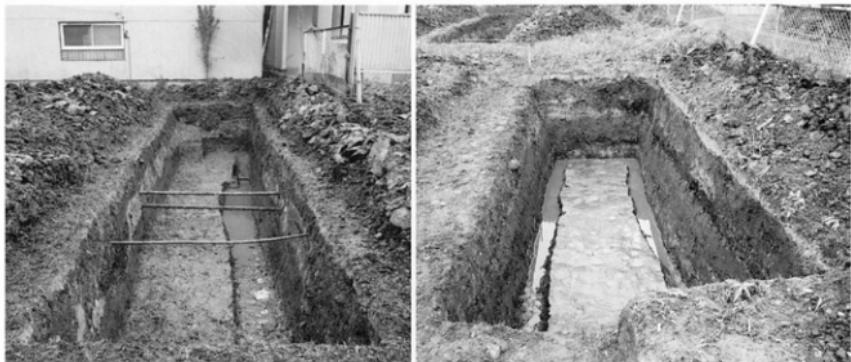
図版10



出土遺物 1 : 3



出土遺物 1 : 3



10 駄経寺町2丁目A地区

△トレンチ1（南から）

▷トレンチ2（南から）



トレンチ1 北端断面(西から)

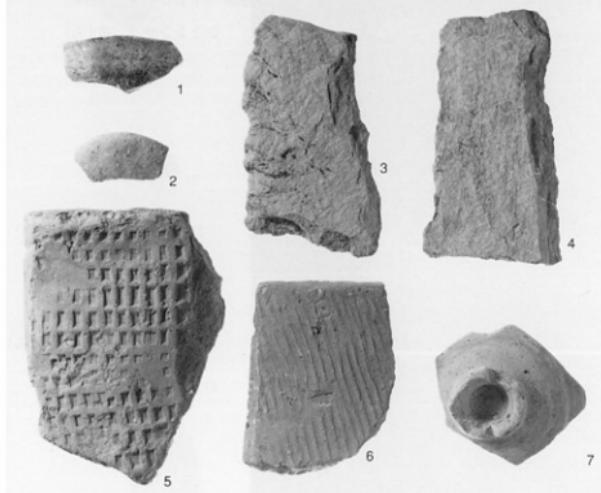


10 駄経寺町2丁目B地区

トレンチ1（南から）



トレンチ1 サブトレ部分(西から)



駄経寺町2丁目A地区  
出土遺物 1:3



△駄経寺町2丁目A地区  
塑像 1:1  
▷駄経寺町2丁目B地区  
石斧 1:3



11 海田東町地区

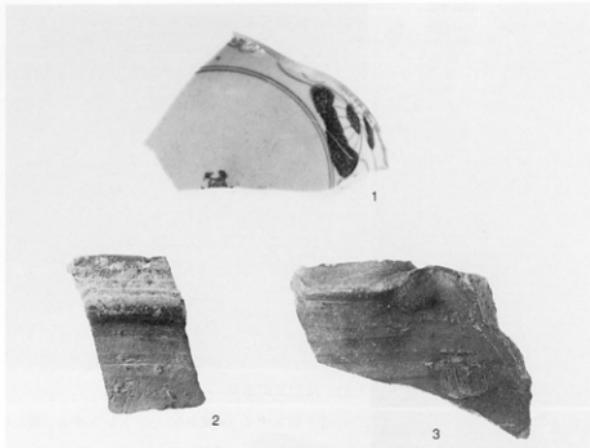
△トレンチ 4 (南東から) ▷ トレンチ 3 (西から)  
△トレンチ 4 (南東から)



12 生田地区

△ (平成15年度) トレンチ 1 (西から)  
▷ (平成16年度) トレンチ 1 (北から)





12 生田地区  
出土遺物 1 : 3



13 北野地区  
△トレンチ 1 (東から)



14 寺谷A地区  
△トレンチ 1 (南から)  
▷トレンチ 1 (北から)





14 寺谷A地区

トレンチ 3 (東から)



寺谷B地区

トレンチ 2 (東から)



トレンチ 3 (南から)



14 寺谷A地区

出土遺物 1 : 2



15 上余戸地区

トレンチ 1 (北から)



16 小鶴地区

トレンチ 1 (南から)

17 国府A地区

トレンチ 1 (北西から)



18 東仲町地区  
トレンチ 1 (東から)



トレンチ 1 下層水路(北から)



トレンチ 1 広小路側溝西岸



18 東仲町地区  
トレンチ 1  
広小路側溝（南から）



トレンチ 2（西から）



トレンチ 2  
広小路側溝（北から）



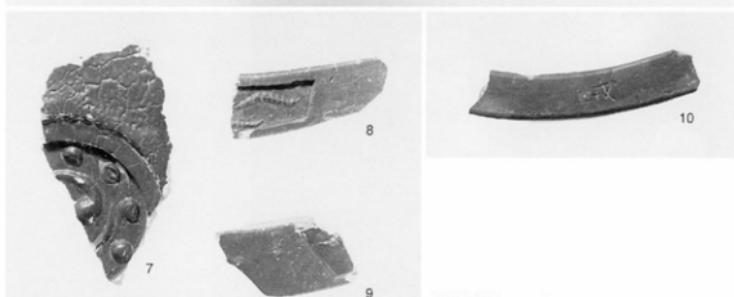
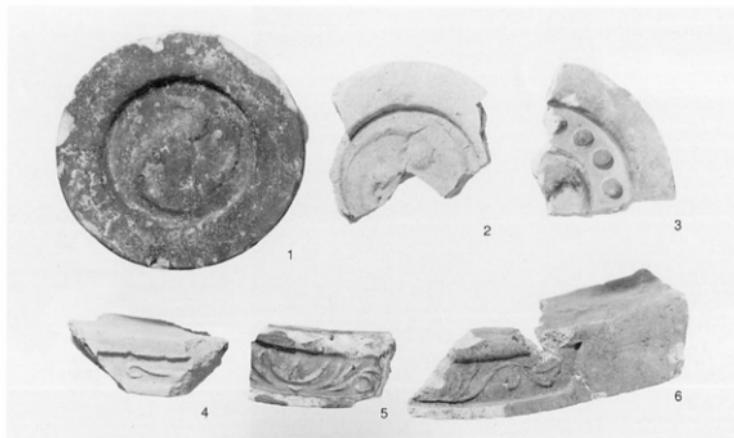
18 東仲町地区  
トレンチ 2  
広小路断面（北から）



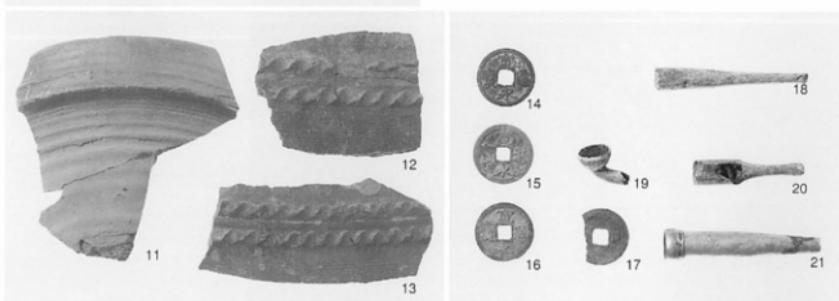
トレンチ 2  
広小路側溝（北から）

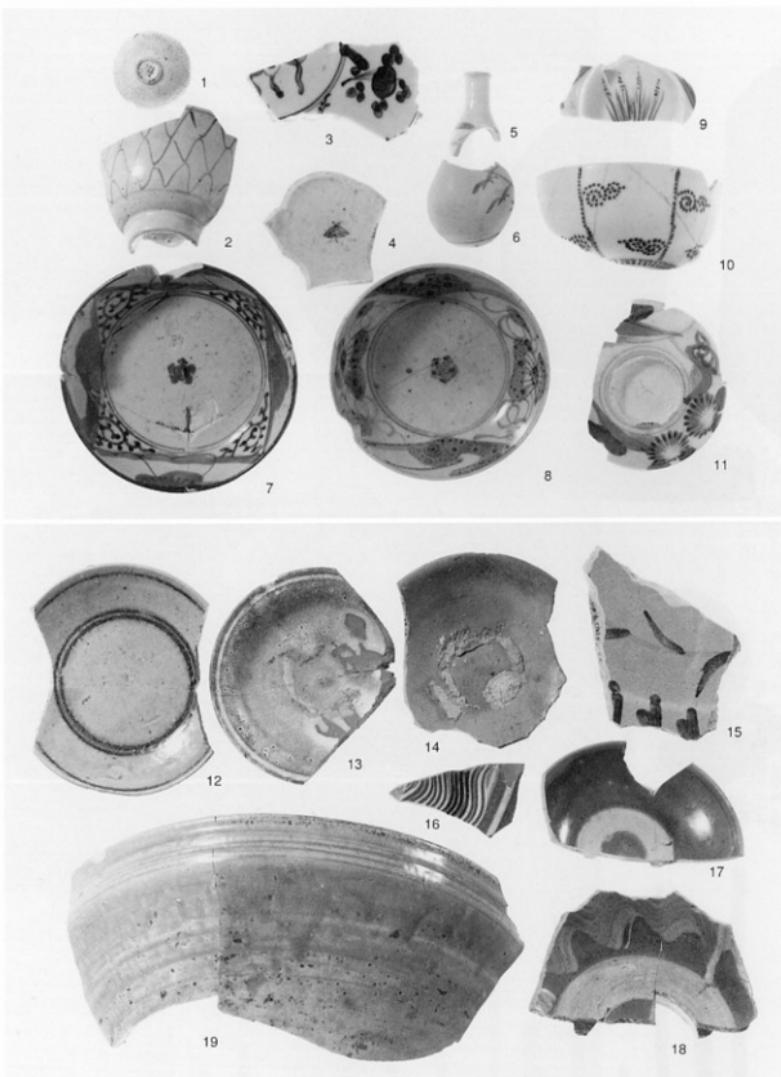


トレンチ 2  
下層水路東岸（西から）

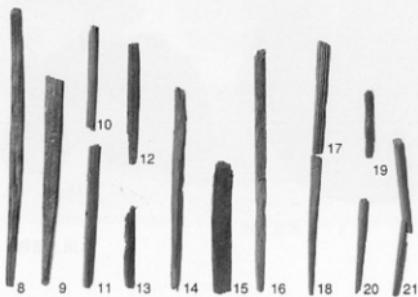
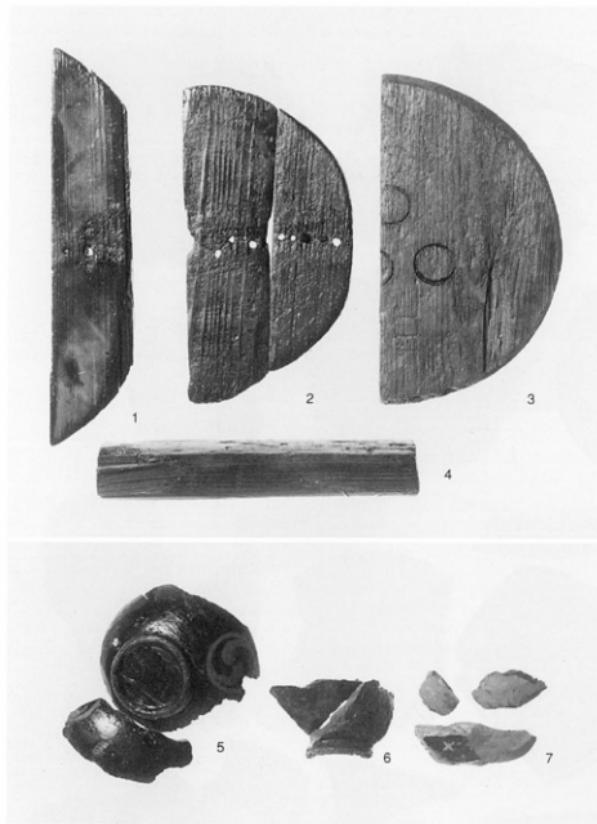


△出土遺物 1 : 3





出土遺物 1 : 3



出土遗物 1 : 3



19 国分寺地区  
トレンチ 1 (東から)



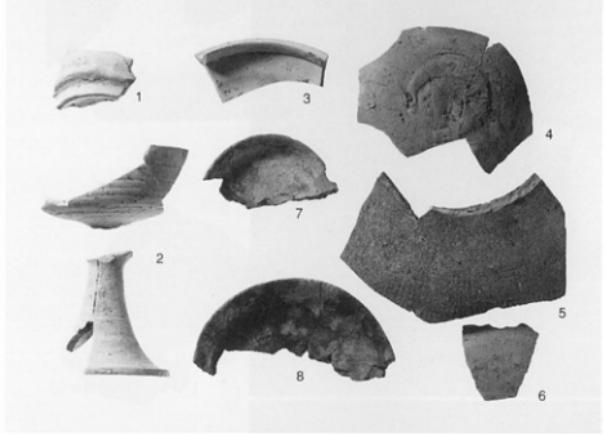
20 三江地区  
トレンチ 3 (北西から)



トレンチ 1 土壌 (北東から)

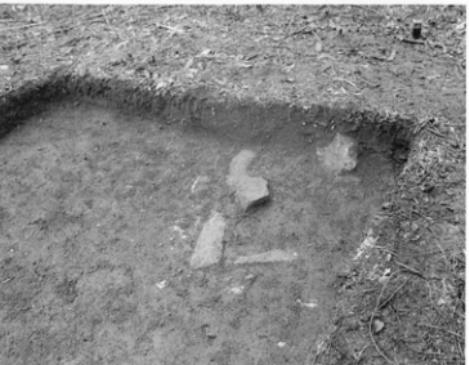


20 三江北区  
グリッド1（北東から）



△出土遺物 1 : 3

21 上福田地区  
△トレンチ1（北西から）  
△トレンチ1（北西から）





22 国庁第9次調査  
トレンチ1 SB43（南から）



トレンチ1 SB44（北から）



トレンチ1 SD43・SD44（南から）



トレンチ3 SD42(南から)



トレンチ3 SD42(南から)



トレンチ2 SD45(南から)



トレンチ4 SD30(東から)



トレンチ4 SD28(東から)



トレンチ4 47・48・49(東から)



トレンチ4（南から）



墨書き土器「山」「山守」  
出土遺物 1 : 1



墨書き土器「守酒殿」  
出土遺物 1 : 1



墨書き土器「汎入」(1:1)

墨書き土器「縦」(1:1)

3 (1:1)



4

5

6

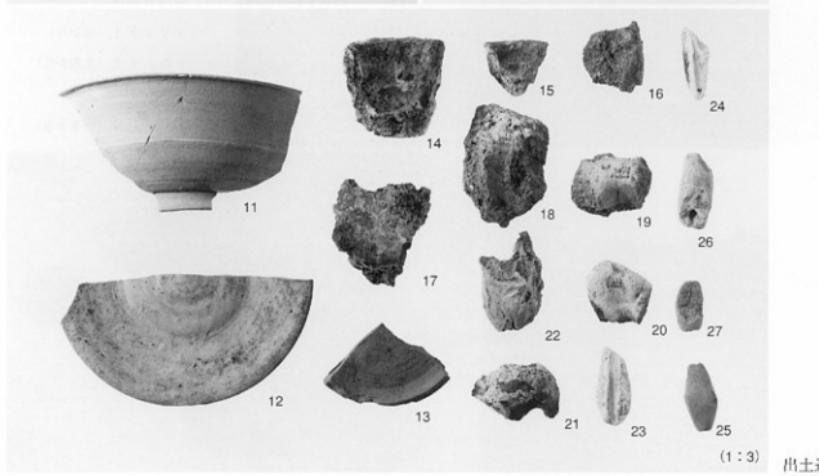
7

8

9

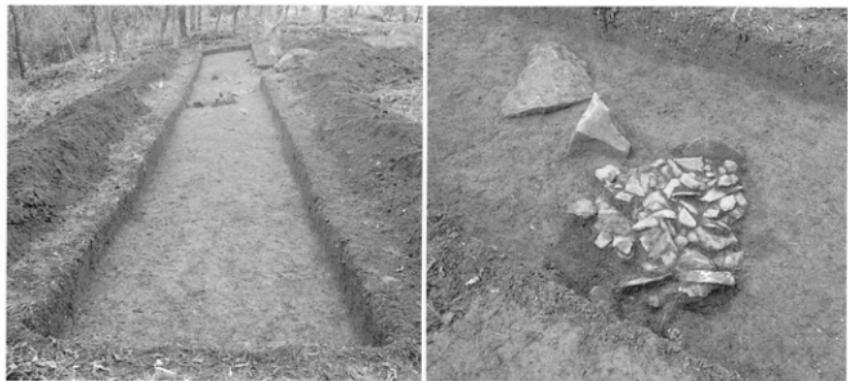
10

(1:2)



(1:3)

出土遺物



23 清谷地区

トレンチ 1 (南東から)

トレンチ 1 (南西から)



24 国府B地区

△グリッド1 (北から)

△トレンチ3 (北西から)

△グリッド1

1号落し穴 (南東から)



---

## 倉吉市内遺跡分布調査報告書13

平成17年3月18日 印刷  
平成17年3月18日 発行

調査  
発行 倉吉市教育委員会  
印刷  
製本 勝美印刷株式会社

---